

佐久市埋蔵文化財調査報告書第29集

TUTUMURA

YAMABOUSHI

筒村遺跡B 山法師遺跡B

長野県佐久市根岸筒村遺跡B・山法師遺跡B調査報告書

1994. 3

佐久平土地改良区
佐久市教育委員会

TUTUMURA

YAMABOUSHI

筒村遺跡B 山法師遺跡B

長野県佐久市根岸筒村遺跡B・山法師遺跡B調査報告書

1994. 3

佐久平土地改良区
佐久市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、平成3年度・平成4年度に発掘調査を実施した長野県佐久市大字根岸に所在する筒村遺跡B及び山法師遺跡Bの発掘報調査告書である。整理作業・報告書刊行は、平成5年度に行った。
- 2 本調査は日向地区団体営土地改良総合整備事業に関わり、佐久平土地改良区から委託を受け佐久市教育委員会が実施した。調査費の内農家負担分は、国庫・県費補助金を受けて実施した。

3 遺跡の所在地

筒村遺跡B 佐久市大字根岸900他
山法師遺跡B 佐久市大字根岸784他

4 調査期間および面積

筒村遺跡B

試掘調査—平成2年12月17日～2年12月25日 面 積—2,476m²
発掘調査—平成3年8月26日～3年10月11日 面 積—5,787.5m²
整理調査—平成4年1月6日～4年1月30日

山法師遺跡B

試掘調査—平成3年12月4日～3年12月10日 面 積—約1,450m²
試掘調査—平成4年10月12日～4年10月17日 面 積—約735m²
発掘調査—平成4年7月1日～4年8月17日 面 積—約3,060m²
整理調査—平成4年10月12日～12月24日、平成5年5月6日～7月16日
平成6年2月28日～3月23日

- 5 本書の第II章を佐々木宗昭が、他を林 幸彦が執筆し、佐々木宗昭が編集した。
- 6 本書および関係資料等は、佐久市教育委員会で保管している。

目 次

例言

I 調査の概要

1 調査の経緯と経過	1
2 調査の体制	1
3 調査の概要	1

II 山法師遺跡B

1 堅穴住居址

1) J 1号住居址	4	5) H 1号住居址	15
2) J 2号住居址	8	6) H 2号住居址	16
3) J 3号住居址	10	7) H 3号住居址	16
4) J 4号住居址	13	8) H 4号住居址	18

2 挖立柱建物址

1) F 1号掘立柱建物址	19	2) F 2号掘立柱建物址	19
---------------	----	---------------	----

3 堅穴状遺構

1) Ta 1号堅穴状遺構	20	2) Ta 2号堅穴状遺構	20
---------------	----	---------------	----

4 土坑

1) D 1号土坑	21	2) D 2号土坑	22
3) D 3号土坑	23	4) D 4号土坑	23

5 グリッド出土・表探遺物

6 山法師遺跡B（第IV調査区）

III 筒村遺跡B

1 堅穴住居址

1) H 1号住居址	37
------------	----

2 挖立柱建物址

1) F 1号掘立柱建物址	38	2) F 2号掘立柱建物址	39
---------------	----	---------------	----

3 土坑

1) D 1号土坑～D 20号土坑	39
-------------------	----

4 遺物集中地点出土土器

I 調査の概要

1 調査の経緯と経過

筒村遺跡および山法師遺跡は、佐久市西部の中沢川右岸にあって標高708m～722mを測る。縄文時代から平安時代にかけての遺跡として知られていた。平成2年、日向地区団体営土地改良総合整備事業が計画されたため、事業の開始される前年に試掘調査し保護協議を行うこととなった。試掘調査の結果、両遺跡とも遺構の存在が確認され協議がもなれたが、遺跡の破壊が余儀ない事態となつた。日向地区団体営土地改良総合整備事業施行予定地を筒村遺跡Bおよび山法師遺跡Bとし、佐久建設事務所による中沢川の改修工事予定地を筒村遺跡Aおよび山法師遺跡Aと呼称し、平成3年度に筒村遺跡の、平成4年度に山法師遺跡の発掘調査を実施した。

2 調査体制

◎発掘調査受託者 教育長 大井 季夫

事務局（平成5年度）

教育次長 奥原秀男 埋蔵文化財課長 上原正秀 管理係長 小林泰子

埋蔵文化財係長 草間芳行 埋蔵文化財係 高村博文 林 幸彦 三石宗一 須藤隆司

小林真寿 羽毛田卓也 富沢一明 上原 学

調査担当者 林 幸彦 調査主任 佐々木宗昭 調査副主任 横 益子

調査員 浅沼ノブ江 荒井ふみ子 荒井豊平 今井みさ子 市川愛子 市川チイ子

岩下吉代 岩下とも子 岩下文子 岩下友子 岩下なみよ 遠藤しづか

小田川栄 金森治代 工藤さだ 工藤しづ子 小林立江 小林まさ子

小林よしみ 小林陽子 重田つる子 重田まさ江 重田よし子 重田 優

関口美咲 武田千里 武田まつ子 高橋ふみ 稲田咲枝 並木ことみ

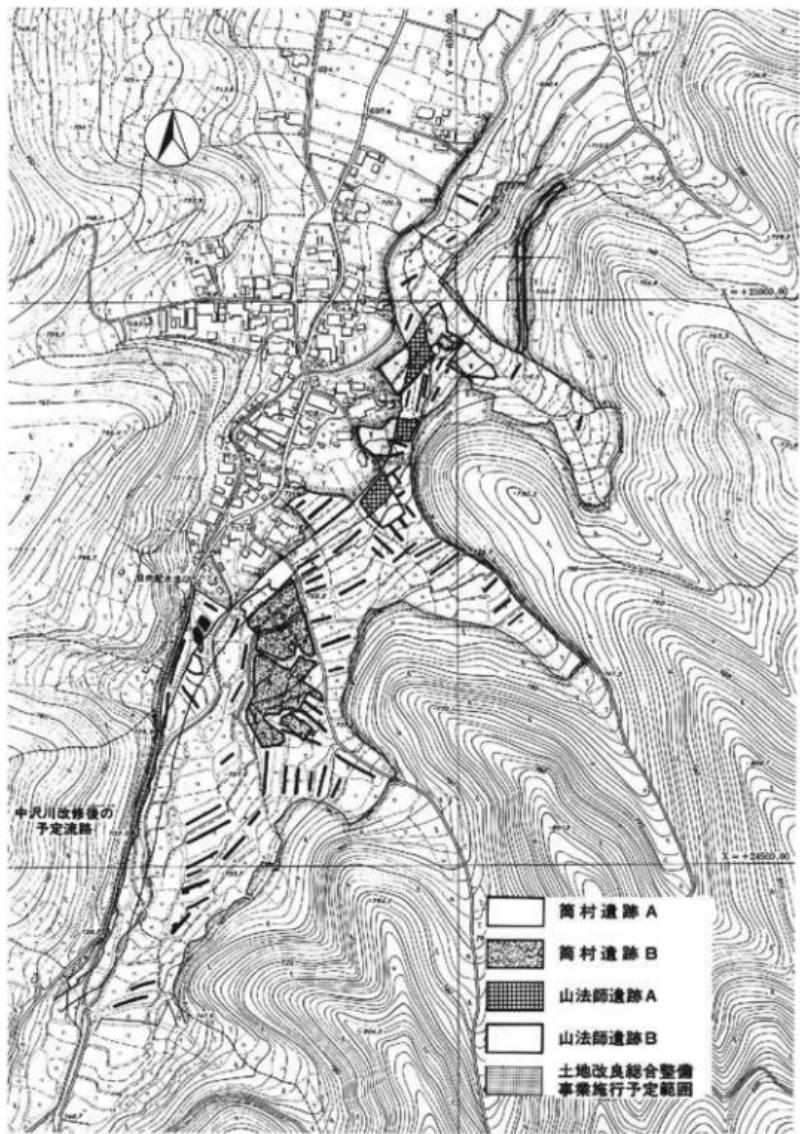
羽毛田香里 橋詰勝子 橋詰けさよ 橋詰信子 細萱ミスズ 堀込成子

堀籠 因 柳沢豊志子 山崎平八郎

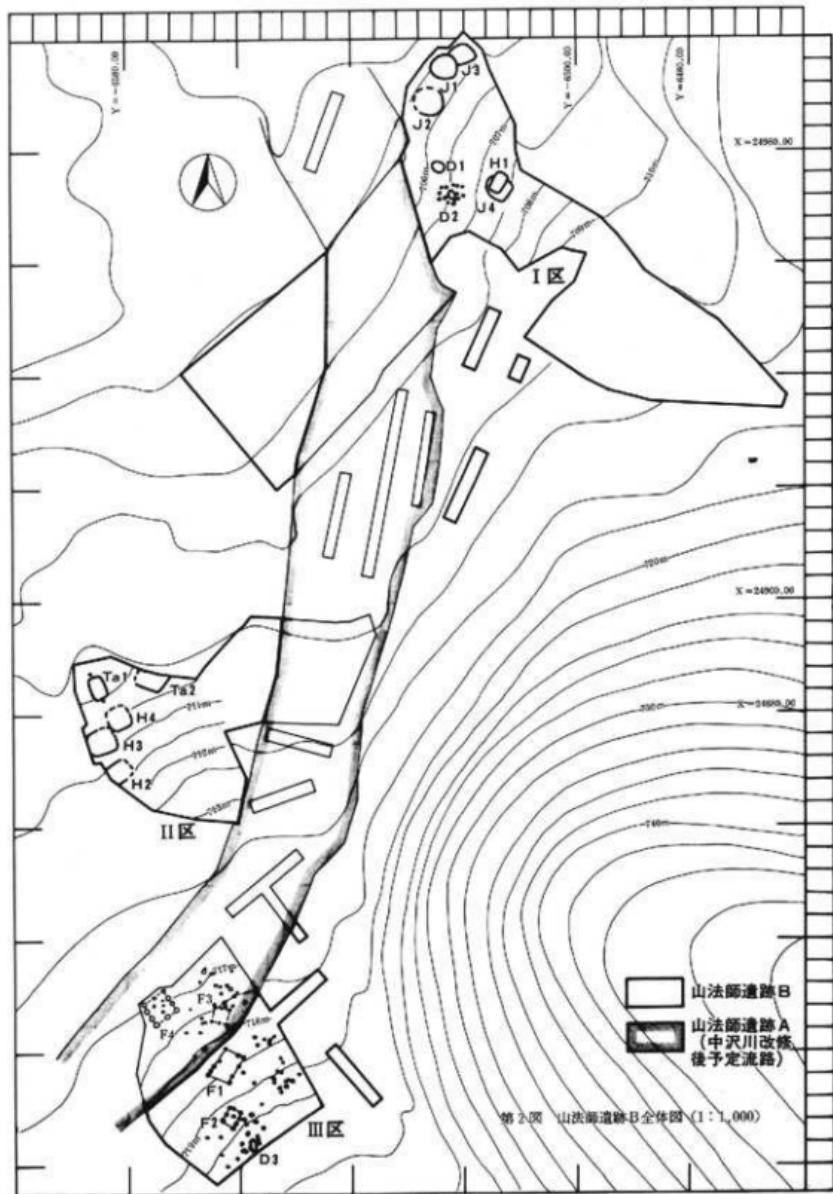
3 調査の概要

筒村遺跡B 坑穴住居址（平安時代1棟）、堀立柱建物址2棟、土坑19基、
遺物集中地点5箇所

山法師遺跡B 坑穴住居址（縄文時代4棟、平安時代4棟）、堀立柱建物址2棟、竪穴状遺構
2基、土坑基、ピット群



第1図 筒村遺跡B・山法師遺跡B調査区およびトレンチ設定図(1:5,000)



第2図 山法師道跡全図 (1:1,000)

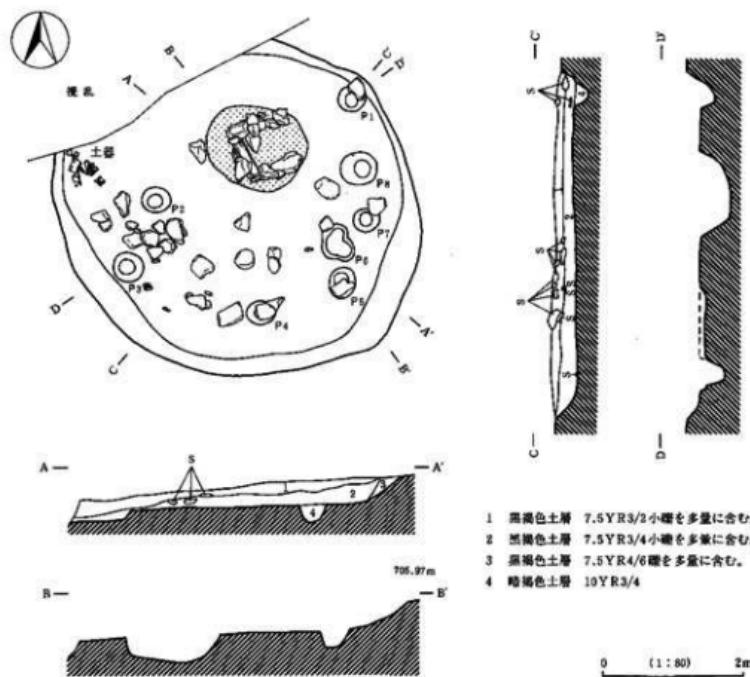
II 山法師遺跡B

1 積穴住居址

1) J 1号住居址

本住居址は、第1調査区の最北端に位置し、グリッドた・らー1・2内より検出された。本址はJ 3号住居址と重複しており、南西部を破壊している。尚、本住居址の北西部、及び、J 3号住居址の北部側は耕作（土堤）による搅乱が認められた。

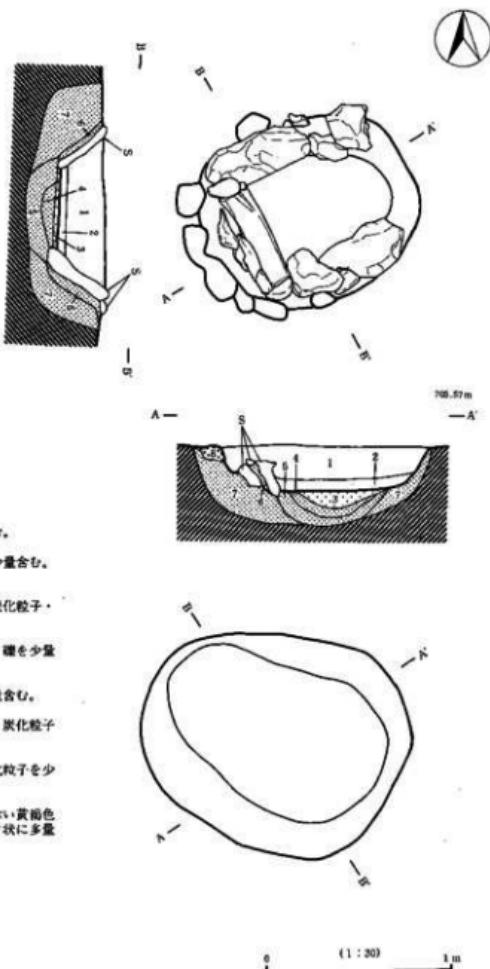
平面形状は、残存するプランの輪郭から推して東西5.2m、南北4.8mを測り円形を呈するものと思われる。壁高は、東から西への地形の傾斜に沿って東側の壁高は約28cm、西側は約10cmを測



第3図 J 1号住居址実測図

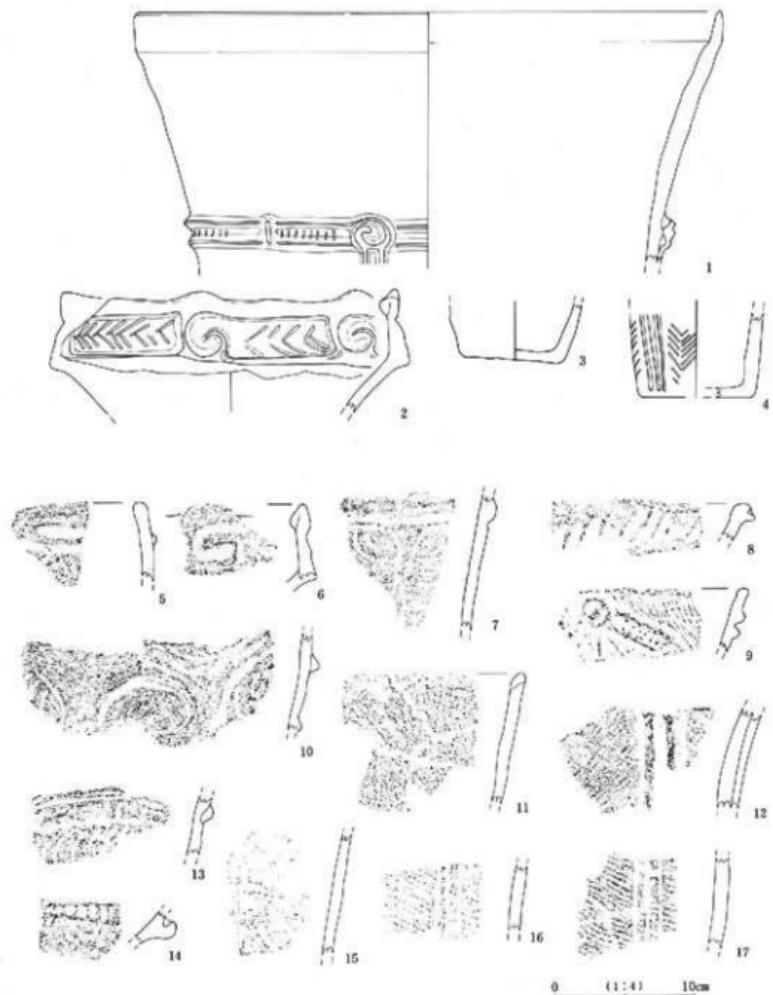
り東部側の壁に比べ、西側の壁は全体に低い状態であった。床面は小砾が点在した凹凸の床で、西壁際より深鉢（第5図）が出土した。ピットは8個検出され壁際に沿ってほぼ規則的に配列されており、床面から約17~30cmの深さで円形に掘り込まれていた。炉は中央よりやや北側に位置し、120×110cmの方形石組炉で焼土を伴っていた。西辺に最も大形で剝離面の整った板状の山石（安山岩）を据え、当石組の周辺部はカチカチの粘土で補強されていた。また第4図に示したように、炉石は床面下約40cmに掘り方を掘り、「逆ハの字状」に埋め込まれていた。尚、東辺の炉石はまったくないが、当初の意図であるか否かの資料を得ることはできなかった。

- 1 高色土層 7.5YR4/3小砾を多量含む。
- 2 暗褐色土層 7.5YR3/4焼土粒子を少量含む。
粒子細かい。
- 3 にじむ赤褐色土層 5YR4/3焼土・炭化粒子・小砾を少量含む。
- 4 暗赤褐色土層 5YR5/6小砾を多量、礫を少量炭化粒子を微量含む。
- 5 にじむ赤褐色土層 5YR4/4砾を多量含む。
- 6 暗褐色土層 7.5YR3/4小砾を多量、炭化粒子を微量含む。
- 7 棕褐色土層 7.5YR4/4砾を多量、炭化粒子を少量含む。
- 8 にじむ黄褐色土層 小砾を多量、にじむ黄色土（粘性強、10YR6/3）をブロック状に多量含む。



第4図 J 1号住居址炉炭測図

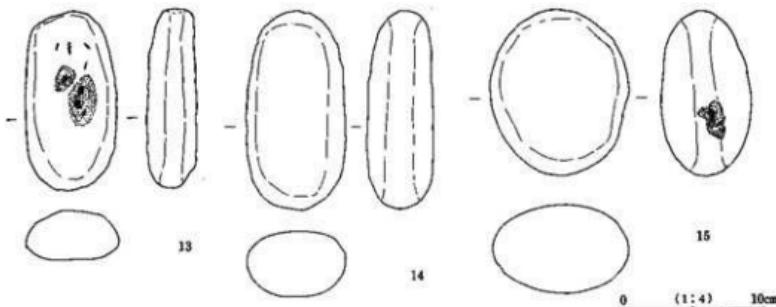
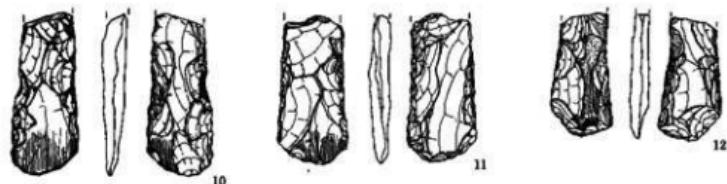
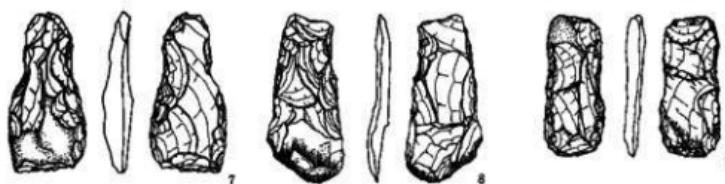
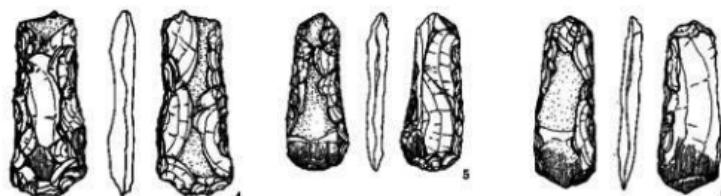
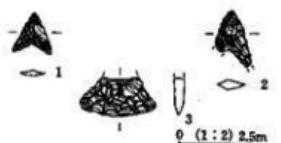
本遺構から出土した土器は、第5図に示した4点が図上復元され、1は西壁より40cm内側から出土した大形の深鉢である。また、出土土器の主なものを拓影図によって示した。他の出土遺物は、石鏃3点、打製石斧9点、磨石3点がある。此等出土した土器の内、第5図1、2、3、5、



第5図 J1号住居址出土土器実測図

7は唐草文系土器で、11、12、13は加曾利E III式土器である。

本遺構は縄文時代中期後葉に比定されよう。



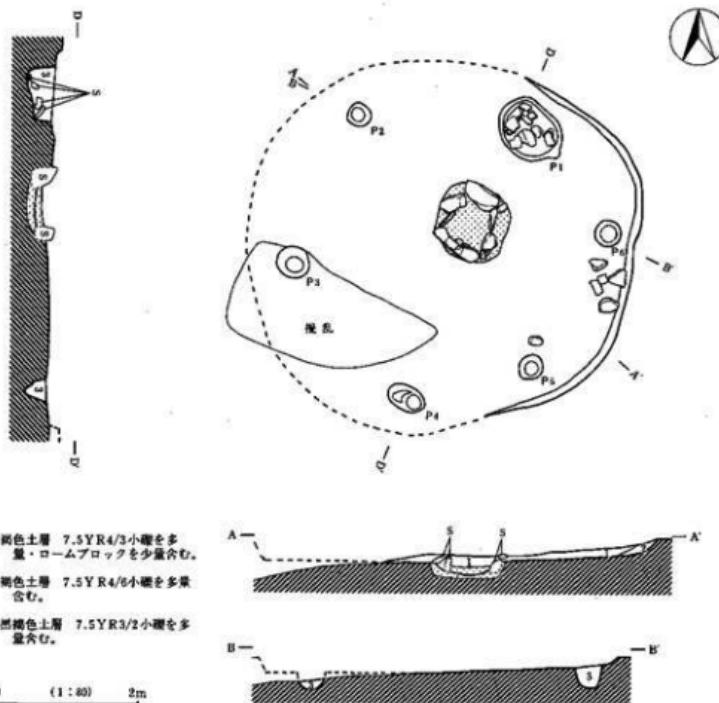
0 (1:4) 10cm

第6図 J 1号住居址出土石器実測図 (1~3は1:2、4~15は1:4)

2) J 2号住居址

本址は、第1調査区の最北端に位置し、グリッドた・ら-3・4内より検出された。本址居址の北側大半は耕作等により削平され、更に、本址の西南部付近は攪乱が認められた。

平面形態は、残存するプランの輪郭、及び確認されたピットの状況から推定して東西5.6m、南北5.3mを測り、円形を呈するものと思われる。残存する壁高は5~15cmと軟弱なもので、遺存度は極めて悪かった。床面の東側壁沿には、15~20cm前後の板状の安山岩山石が5個配されており、炉の周辺部から東側壁部にかけ堅く、なめらかな状態であった。ピットは6個検出され、ほぼ規則的に配されており床面から17~36cmの深さで円形に掘り込まれていた。尚、P₁は100×80cm深さ36cmで梢円形を呈し、規模・深さ併に確認されたピットの中では最大のもので、底面からは第9図に示した深鉢の胴部～口縁部片が出土した。炉は、中央よりやや東側に位置し、110×100cm

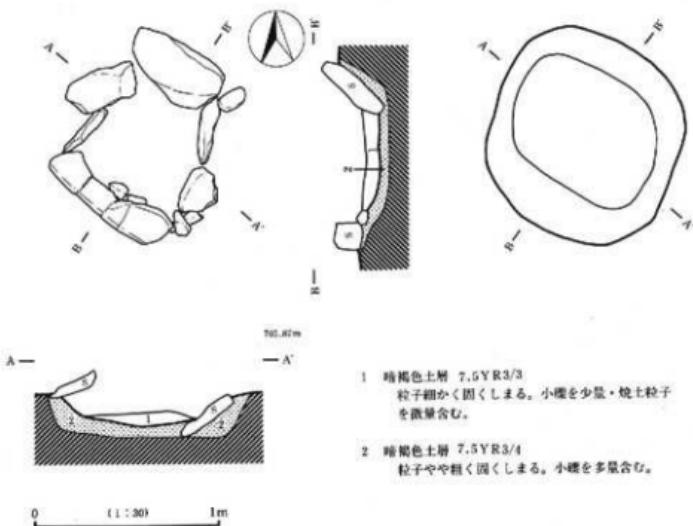


第7図 J 2号住居址実測図

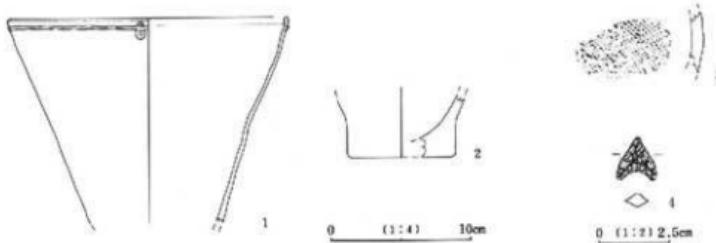
の方形石組炉で若干の焼土を伴っていた。炉石組は、床面下約30cmの掘り方を掘り、北辺に最も大形で板状の安山岩山石を据え、西・北・東の各辺石組は「逆ハの字状」に、南辺のみが垂直に埋め込まれていた（第8図）。

出土土器は、第9図に示した2点が岡上復元され、1は、住居址内土坑と思われる底面より出土した小形の深鉢である。他の出土遺物は、第9図に示した石器1点がある。

本址の帰属期は、掘の内II式（第9図1）の土器などから縄文時代後期であろう。



第8図 J 2号住居址炉実測図

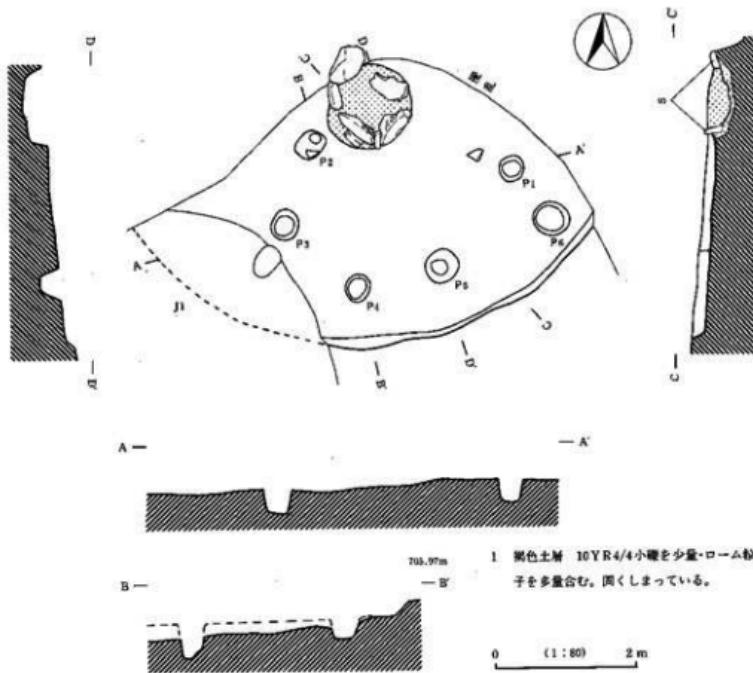


第9図 J 2号住居址出土遺物実測図

3) J 3号住居址

J 3号住居址は、第1調査区の最北端に位置し、グリッドラ・つー1・2より検出された。本址はJ 1号住居址と重複し、南西側の一部はJ 1号住居址によって破壊されている。更に、本住居址が確認された地点は、舌状の段丘をなす最先端部からで、此の段（土堤）をなす擾乱の影響を受け、住居址の約1/4が確認されたのみであった。

平面形態は、確認されたプランの輪郭、及び、炉の位置から推定すると直径8m前後の大型住居であったことが考えられる。残存する壁高は20cm前後を測る。床面は個體が混在した凹凸の床で、炉の周辺は特に堅固でなめらかな状態であった。ピットは6個確認され、床面から22~28cmの深さで円形に掘り込まれ、P₄~P₆は壁に沿って検出された。炉は、中央やや北側に位置し、耕作（土堤）の擾乱の影響を受け横転していた。第10図の土層断面からも理解されるように横転した炉石の正位は、第4層の位置に埋め込まれていたことが看手され、炉石組は110×110cmの規模

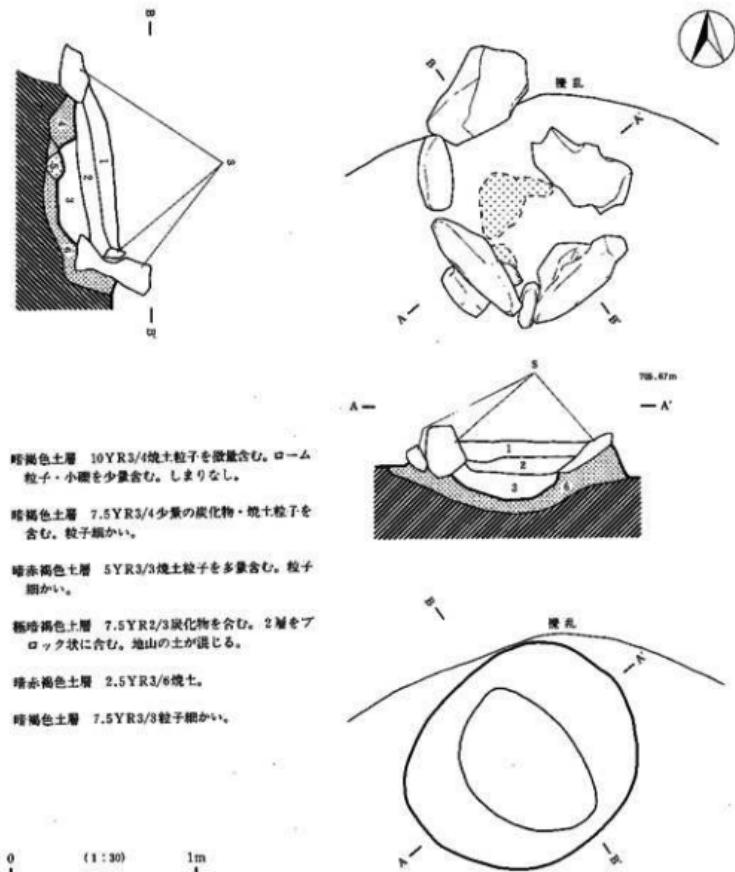


第10図 J 3号住居址実測図

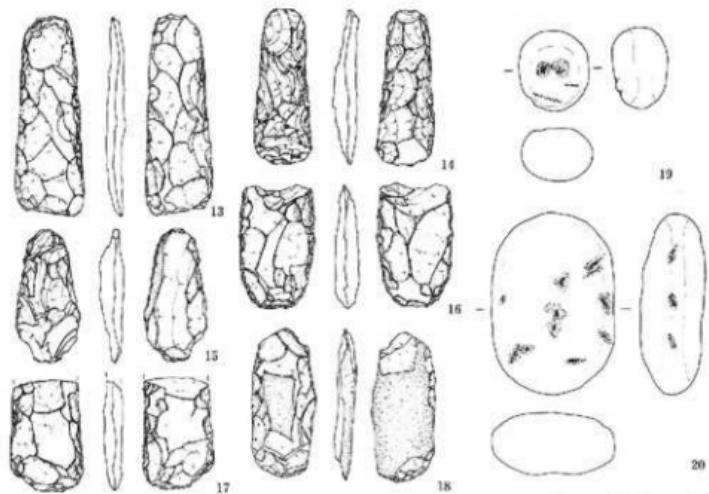
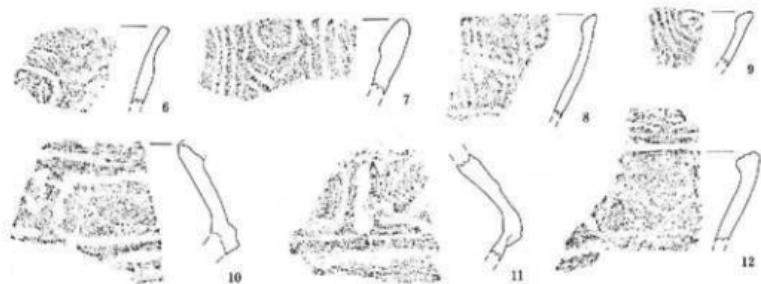
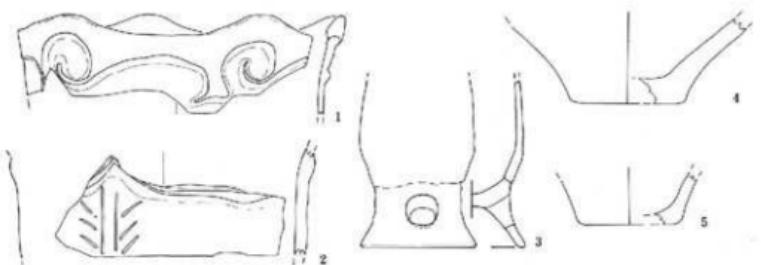
で板状の大形の山石 4 石を配した正確な方形石組炉であったことが考えられる。また、伊石組の断面形状は J 1・2 号住居址と同様に「逆ハの字状」に埋め込まれていた。

本遺構から出土した土器は、第12図に示した 5 点が図上復元され、他の主なものを拓影図に示した。その外の出土遺物として石器 6 点、磨石 2 点が出土した。

本址の帰属時期は、唐草文形の土器が多く出土しており、縄文時代中期後葉であろう。



第11図 J 3号住居址炉実測図



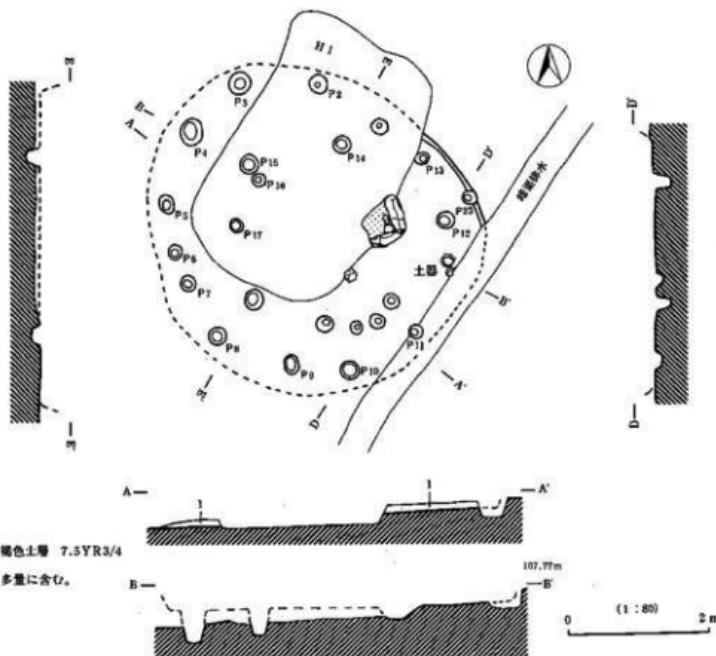
第12图 J 3号住居址出土遗物实测图

0 (1:4) 10cm

4) J 4号住居址

本址は、第1調査区グリッドで-7・8より検出された。本住居の大半は、耕作等により削平され、北東側の一部が残存していたのみであった。尚、本址はH 1号住と重複し、中央部付近は破壊され、東側の壁面と推される部分は暗渠排水による破壊を受けている。

平面形態は、確認されたプランの輪郭、及び、ピットの状況から、南北4.8m、東西4.4mで橢円形を呈するものと思われる。残存する壁高は6cm前後と軟弱で、床面は5~10cm大の礫が点在した床で、炉の周辺部は堅くなめらかな状態であった。ピットは23個確認され、床面から8~25cmの深さで円形に掘り込まれていた。P₁~P₁₃はほぼ規則的に配列されており、北東に残存する壁の状況から、壁に沿っていたと思われる。P₁₄~P₂₃はその内側に配され、炉を狭むかのように馬蹄形に一周していた。炉はH 1号住居址によって北辺、西辺は破壊されている。残存する炉石、及び炉の掘り方等から推し、炉石組は60cm前後で板状の大形山石4石を配した正確な方形石組炉



第13図 J 4号住居址実測図

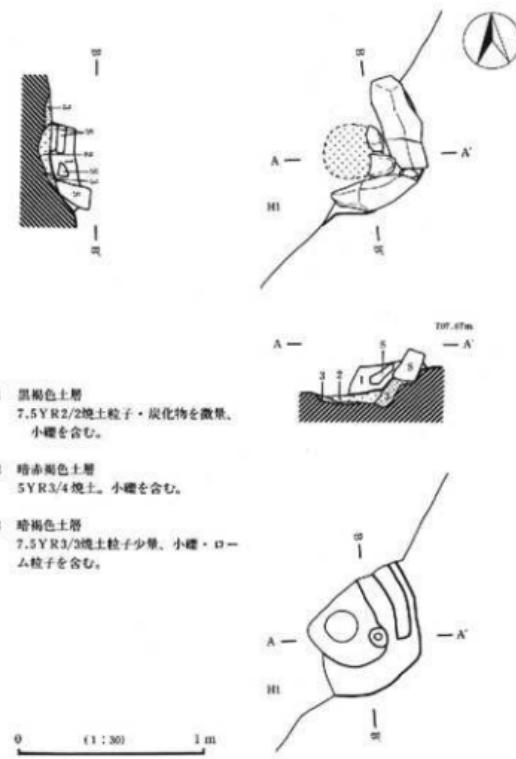
であったと思われる。

尚、石組の断面形状は「逆ハの字状」で焼土を伴っていた。

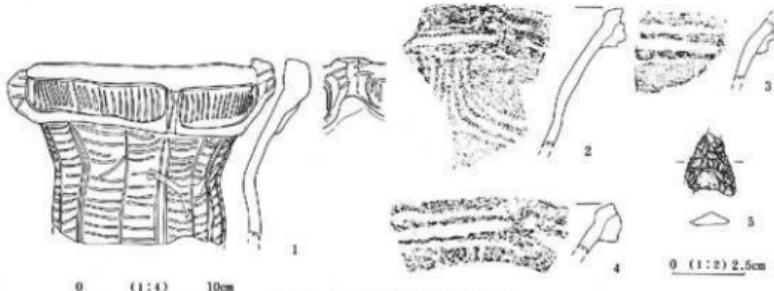
本遺構から出土した土器は、第15図に示した深鉢1点が図上復元され、他の主なものは拓影図に示した。その外の出土遺物としては、石鏃1点がある。

此等の内、第15図の深鉢は、住居址の東壁と推定される部分から約40cm内側の床面より出土した。

本遺構の帰属期は図示されなかつた唐草文形の破片等が他にもみられ、縄文中期後葉に比定されよう。



第14図 J-4号住居址炉竈測図

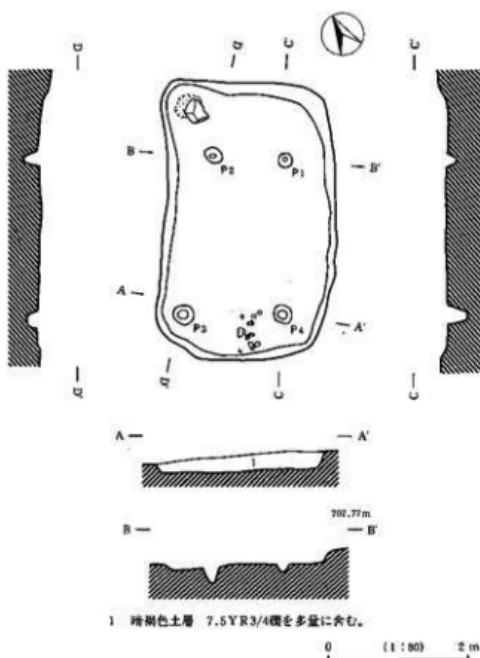


第15図 J-4号住居址出土遺物実測図

5) H 1号住居址

本住居址は、第1調査区で7グリッド内より検出され、J 1号住居址と重複関係にあり、当住居址の中央部から西側付近を破壊して構築されていた。

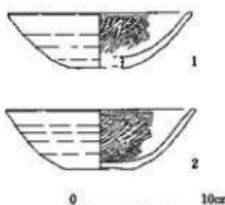
平面形態は、南北4m、東西24mの長方形を呈し、北西コーナーはいく分張り出した形となっている。壁高は、10cm前後と軟弱なもので遺存度は極めて悪かった。床面は、小礫が混在した平坦な床で、特に中央部から東側壁にかけては堅固な床であった。又、北西コーナーの床面は舌状に若干張り出し気味となり、当部から30×40cmの範囲で焼土痕が認められ、その焼土の上には安山岩の角礫が確認された。ピットは4個検出され床面から約15~19cmの深さで円形に掘り込まれていた。カマドは確認されず、焼土痕を切開した結果からもカマドとの関連は極めて薄いことが認められ、何らかの意味をもって床面に置かれたものであろう。



第16図 H 1号住居址実測図

出土した遺物は、住居址の南壁寄りの馬蹄形に張り出した位置から土師器杯片、須恵器杯片が出土し、第17図に示した土師器杯の2点が図示できた。

本住居址の帰属期は、出土遺物等から平安時代の前期後半に位置されよう。



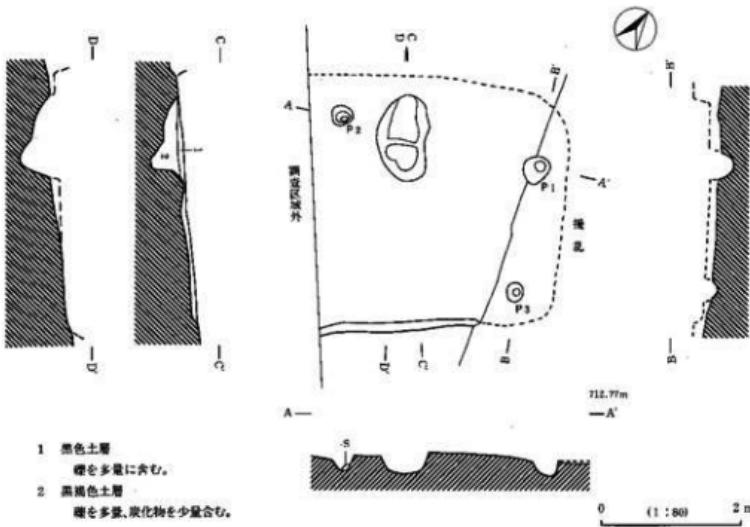
第17図 H 1号住居址出土土器実測図

6) H 2号住居址

H 2号住居址は、第2調査区のグリッドいー33内から検出された。本住居址は南東部の一部が確認されたのみで、大半は耕作等の削平、及び、攪乱の影響を受け遺存度は極めて悪かった。

平面形態は、残存するプランの輪郭、及び、ピットの位置から推し東西3.8m、南北およそ4m前後と想定され隅丸正方形を呈するものと思われる。残存する壁高は、約9cm前後と軟弱であった。床面は5~10cm大の礫が点在した凹凸の床で、北西側は耕作等の削平を受け、北東側は攪乱によって破壊されていた。ピットは4個確認されP₁~P₄は床面より20cm前後の深さで円形に掘り込まれていた。P₄は80×40cmの椭円形を呈し、最深部は36cmを測る。覆土中に灰、炭化物等が混入しており、ピットの形態とは異質なものが考えられるが、その性格は判然としなかった。

出土した遺物は少なく須恵器壺の小片が床面の直上より数点出土したのみであった。本住居址の帰属期は明確に判断できないが、須恵器片等から平安時代以後であろう。



第18図 H 2号住居址実測図

7) H 3号住居址

本住居址は、第2調査区のグリッドあ・いー31内より検出された。本址の中央付近から北壁側

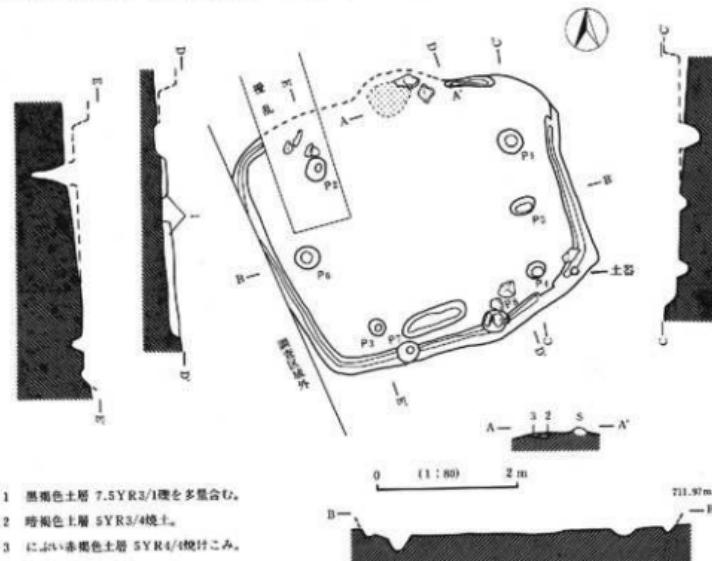
は耕作等の削平、及び、搅乱を受け旧状は閲知できず、西壁の一部は調査区域外であった。

平面形状は、残存するプランの輪郭等から推し、東西4.5m、南北4mの隅丸正方形を呈するものと考えられる。壁高は5~15cm前後と遺存度は極めて悪かった。壁面の直下には深さ5cm程の壁溝が確認され、その検出状況から壁をほぼ一周したものと思われる。尚、南壁面のほぼ中央付近から約30×30cm、深さ20cmを測る円形のピット2個が検出され、この両ピット間から入口の施設と思われる梢円形の浅い掘り込み(90×30cm~15cm)が認められた。床面は、5cm大の礫が浮き出した凹凸気味の床で、入口の施設と推された周辺は堅固な床であった。

カマドは確認されなかった。しかし、削平された北壁沿のほぼ中央に位置する処でローム層を約4cm掘り窪めて焼土が観察され、当部がカマドの位置であった可能性が推察された。

出土遺物は、第20図1・2に示した完形の須恵器坏、及び、須恵器片がある。1は東北コーナーの壁面から出土した完形の須恵器片である。

本住居址の帰属期は、出土遺物等から平安時代の前期後半に比定されよう。



第19図 H3号住居址実測図



第20図 H3号住居址出土土器実測図

8) H 4 号住居址

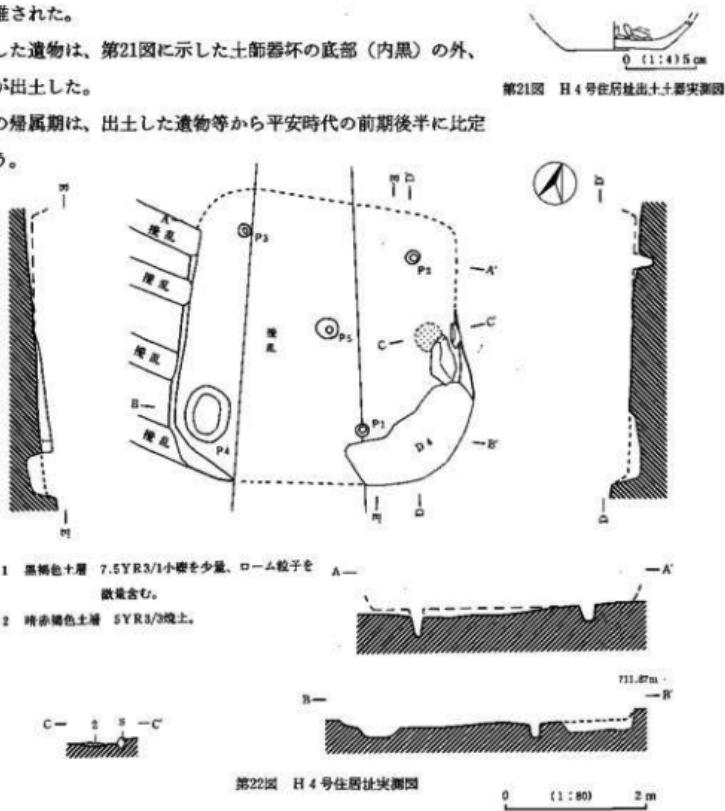
H 4 号住居址は、第2調査区のグリッドいー30・31内から検出された。本住居址の大半は耕作等の削平、及び、擾乱の影響を受け遺存度は極めて悪く、本址の西側壁沿が一部残存していたのみであった。又、本住居址の北東コーナーは、D₄号土坑によって破壊されていた。

平面形状は、残存するプランの輪郭、及び、ピットの位置から推し、東西4.0m、南北4.0m前後の隅丸正方形と思われる。壁高は7cm前後と軟弱で、しかも、耕作による擾乱を部分的に受けている。ピットは5個確認されたが、旧状を把握できたピットはP₄の椭円形(80×50cm-37cm)を呈するピットのみで、他は削平された確認面からでいずれも径20cm前後、深さ17cmを測る。

カマドは確認されなかった。しかし、削平された北壁のはば中央に位置する所で、ローム層を約3cm掘り窓めて焼土が観察されたことから、カマドに伴う焼土である可能性も推された。

出土した遺物は、第21図に示した土師器杯の底部（内黒）の外、小破片が出土した。

本址の帰属期は、出土した遺物等から平安時代の前期後半に比定されよう。



第21図 H 4 号住居址実測図

2 掘立柱建物址

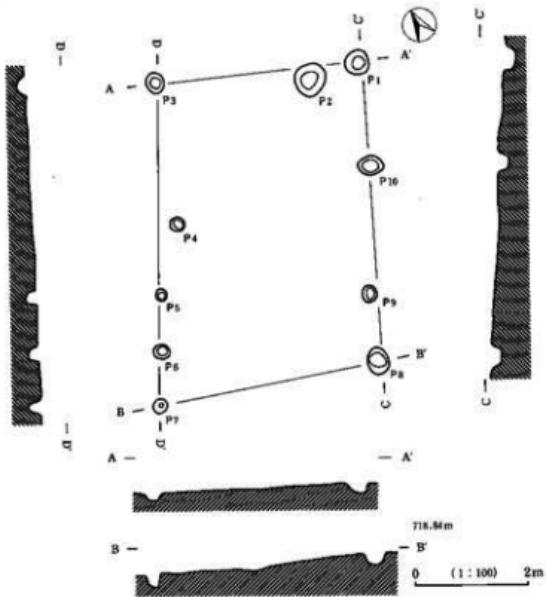
1) F 1号

掘立柱建物址

本建物址は第3調査区
か・き-46グリットにお
いて検出された。

建物の形態は、桁行が
3間・梁間1間の長方形
を呈し、平面規模は桁行
5.2m、梁間3.5mで長軸
方位はN-30°-Wを指す。
柱穴は円形を呈し、直
径20~30cm・深さ20~25
cmを計測する。

遺物は出土せず、本址
の帰属時期は不明である。



第23図 F 1号掘立柱建物址実測図

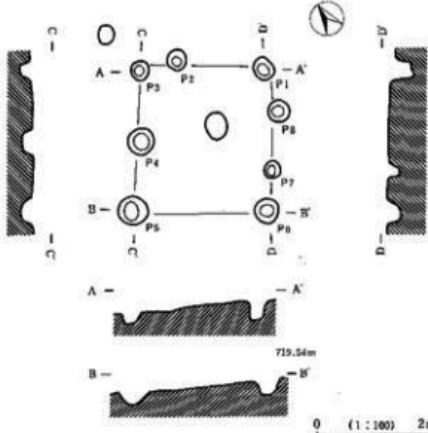
2) F 2号掘立柱建物址

本建物址は第3調査区
か・き-48グリット
において検出された。

建物の形態は桁行2間・梁間1間
のほぼ正方形を呈し、平面規模は
桁行2.5m、梁間2.4mで長軸方位は
N-32°-Eを指す。柱間寸法は桁行
80cm・梁間180cmを測る。

柱穴は円形で、直径40cm前後・深
さ20~35cmを計測する。

遺物は出土せず、本址の帰属時期
は不明である。



第24図 F 2号掘立柱建物址実測図

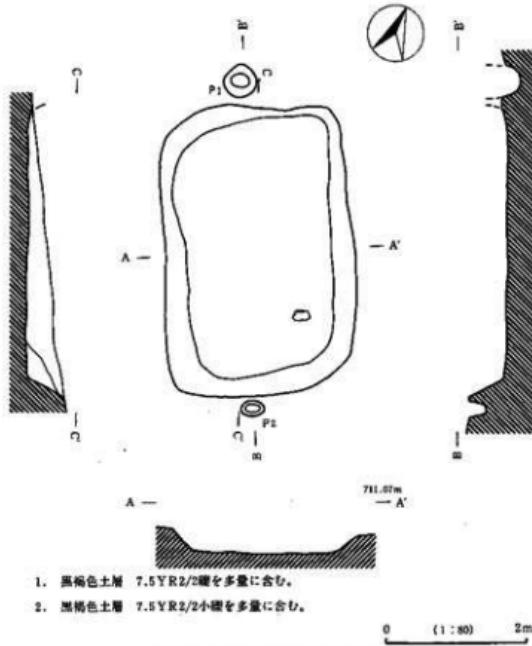
3. 壓穴状遺構

1) Ta 1号壓穴状遺構

本址は、第2調査区グリッドあ-29・30内より検出され、本調査区の最北端に位置する地点から確認された。規模は東西4.5m、南北1.8mで隅丸長方形を呈する。壁高は地形的な傾斜に沿って東側が50cmと高く、西側は10cmと低い。床面は平坦で、小礫が点在した堅い床であった。ピットは遺構内からは確認できなかつたが、東西の壁外のほぼ中央部付近から各一個づつ検出され、確認面より24~25cmの深さを計り円形に掘り込まれていた。

出土した遺物は、床面の直上より図示できない内耳土器の小破片が数多く出土した。

本址の帰属期は、出土遺物及び、発掘調査区の対岸に所在する日向城跡との関連も考慮して15~16世紀と思われる。



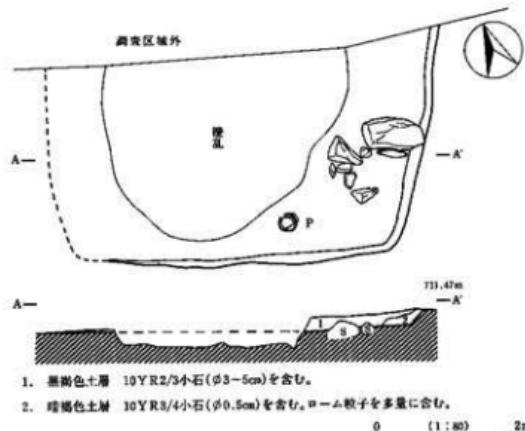
第25図 Ta 1号壓穴状遺構実測図

2) Ta 2号壓穴状遺構

本址は第2調査区グリッドド・え-29より検出されたが、中央部は攪乱によって破壊され、西壁は、耕作により削平されている。残存壁高は15cm前後を測る。

出土遺物は、第27図に示した2点の内耳土器が出土した。1の内耳土器は南壁沿の床面から正位の状態で出土し、底部面を欠損しているものの胴部から口縁部にかけてはほぼ完形であった。そして、この完形の内耳土器と重り合って、2に示した別個体の内耳土器片（口縁～胴部）が出土した。

本遺構の帰属期
は出土遺物から
15~16世紀と考
えられる。



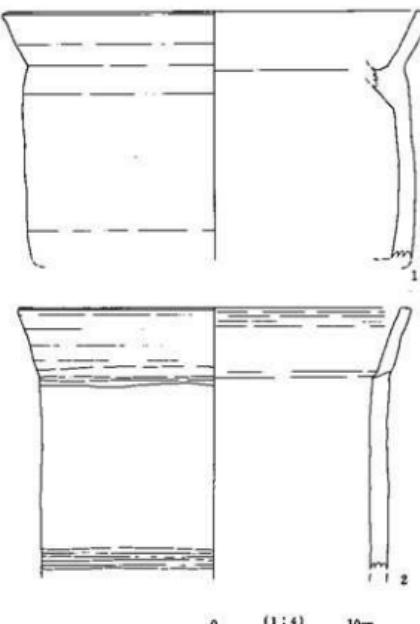
第26図 Ta 2号竖穴状遺構実測図

4 土坑

1) D 1号土坑

本土坑は、第1調査区のグリッドた・ら-6・7より検出された。形態は、240×230cmの円形を呈し、深さは確認面より15~30cmを測る。土坑内には25cm大の礫がぎっしりと投げ込まれたような状態で埋まっており、覆土中には少量の炭化物、焼土粒子が混在していた。底面は、小礫が点在し、堅くしまった平坦面であった。壁は西壁側が耕作による削平を受けていたが、残存する東壁から推すと全体にゆるやかに立ち上るものと思われる。

出土遺物は、第29図に示した加曾利E III式土器、唐草文系の土器がある。本址の帰属時期は、縄文時代中期後葉であろう。



第27図 Ta 2号竖穴状遺構出土土器実測図



第28図 D 1号土坑実測図



第29図 D 1号土坑出土遺物実測図

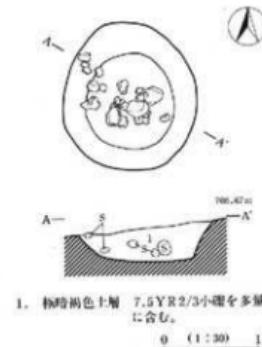
2) D 2号土坑

本土坑は、第1調査区のグリッドらー8内より検出され、D 1号土坑の南側に接した地点で確認された。

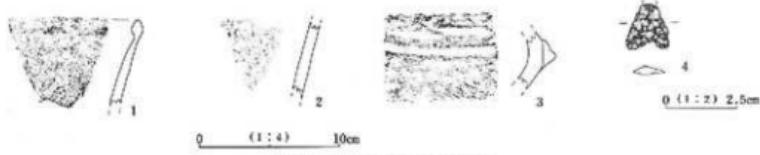
形態は、140×160cmの円形を呈し、深さは確認面より25~40cmを測る。

土坑内には10~30cm大の砾が多量に埋っていた。壁は、東壁側が垂直に立上るのに対し、西壁側はなだらかに立ち上っていた。これらの各形態などはD 1号土坑と近似する点が多く、墓坑の可能性もありうる。

出土した遺物は、掘の内II式土器片、石鏃1点が出土した。本址の帰属時期は、縄文時代後期と思われる。



第30図 D 2号土坑実測図

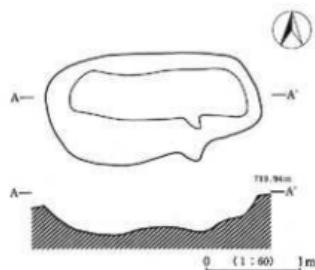


第31図 D 2号土坑出土遺物実測図

3) D 3号土坑

本土坑は第3調査区グリッドK-59内から検出された。形態は東西230cm、南北130cmの椭円形を呈し、深さは確認面より30~50cmを測る。底面はうねるような凹凸面であったが堅くしまった感じであった。壁は西壁がなだらかに立ち上がるのに対し、東壁は垂直であった。形態の特徴から「落とし穴」の可能性もある。出土遺物は、第33図の唐草文系の土器外、打製石斧1点、石鎌1点がある。

本址の帰属時期は、縄文時代中期後半と思われる。



第32図 D 3号土坑実測図



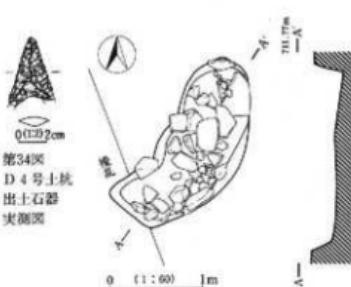
第33図 D 3号土坑出土遺物実測図

4) D 4号土坑

本土坑は第2調査区のグリッドI-31内より検出され、H 4号住居址の南東コーナーを破壊している。平面形態は200×90cmの椭円形を呈し、深さ30cm前後を測る。土坑内には10~40cm大の角礫が多量に確認された。出土遺物は土器部壺、甕の小片が出土した外、石鎌1点がある。

本址の時期は判然としないが、H 4号住居址(平安時代)を破壊しているので、平安時代以降であろう。

5 グリッド・表採遺物



第34図
D 4号土坑
出土石器
実測図

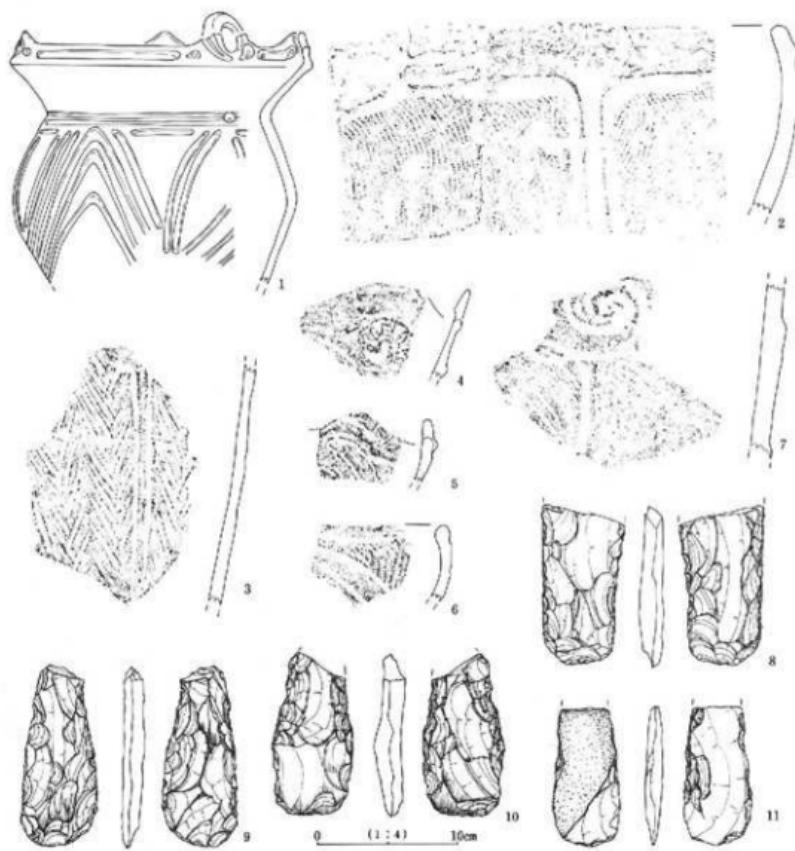


第35図 D 4号土坑実測図



第36図 グリッド・表採遺物実測図

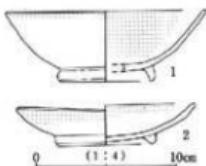
縄文時代、平安時代、中世の土器と縄文時代の打製石斧。石鎌がある。第37図2・3・4・7等は、縄文時代中期後半に比定される加曾利EIV式および唐草文系の土器である。5・6は中期終末~後期初頭、1は後期の掘の内I式に比定される。



第37図 グリッド・表探遺物

6 山法師遺跡B（第IV調査区）

山法師遺跡B（第IV調査区）は、第I調査区の東側に隣接し、本対象地内に7本のトレンチ（A～G）を設定し試掘調査を行った。その結果、Gトレンチ内より第38図1・2に示した9世紀代と思われる灰釉陶器の碗・皿が出土したが、遺構は検出されなかった。



第38図 山法師B遺跡（第IV調査区）出土遺物実面図



1 山法領遺跡B遠景（北方より）



2 山法領遺跡B（第I調査区）全景（南方より）



3 山法領遺跡B（第II調査区）全景（西方より）



1 山下部遺跡B（第田調査区）全景（東方より）



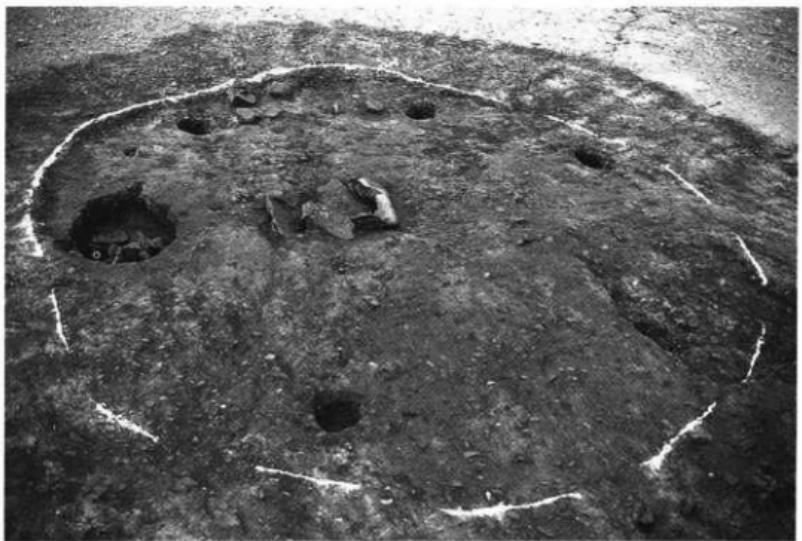
2 J 1号住居跡（東方より）



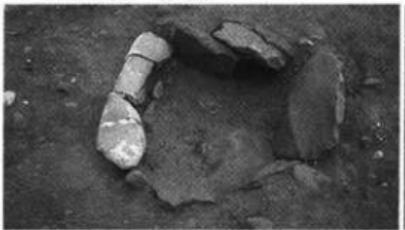
3 J 1号住居址



4 J 1号住居址遺物出土状況



1 J 2号住居址(西方より)



2 J 2号住居址



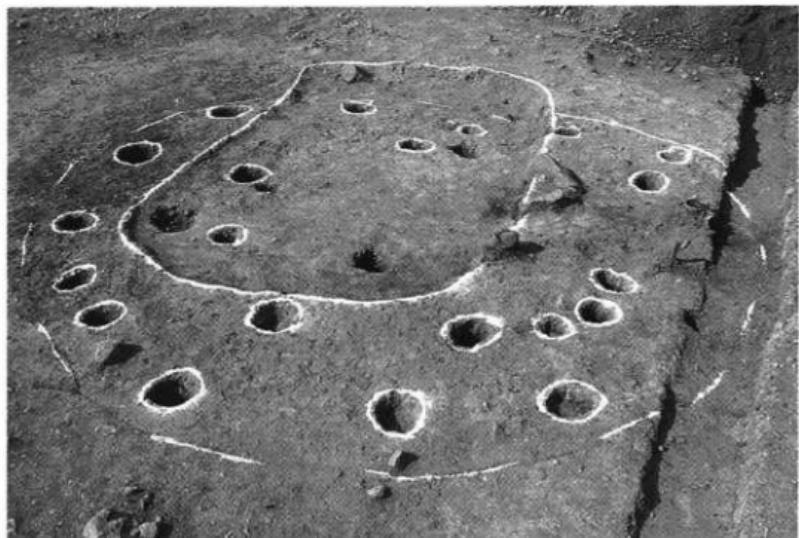
3 J 2号住居址炉及び遺物出土状況



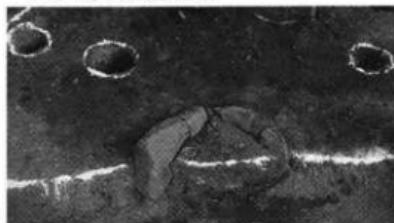
4 J 3号住居址(東方より)



5 J 3号住居址



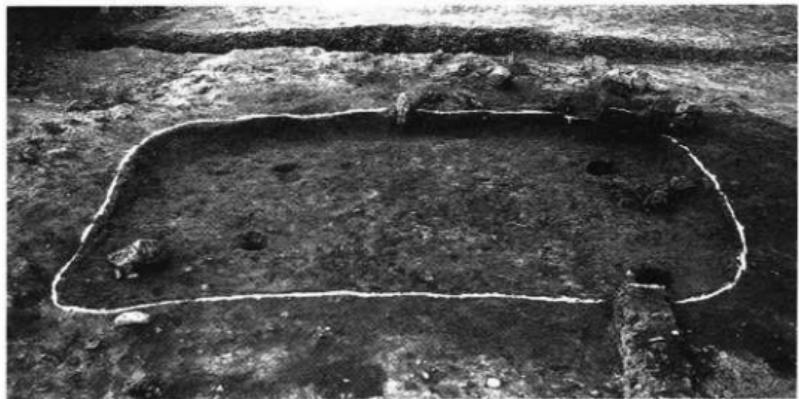
1 J 4号住居址（南北より）



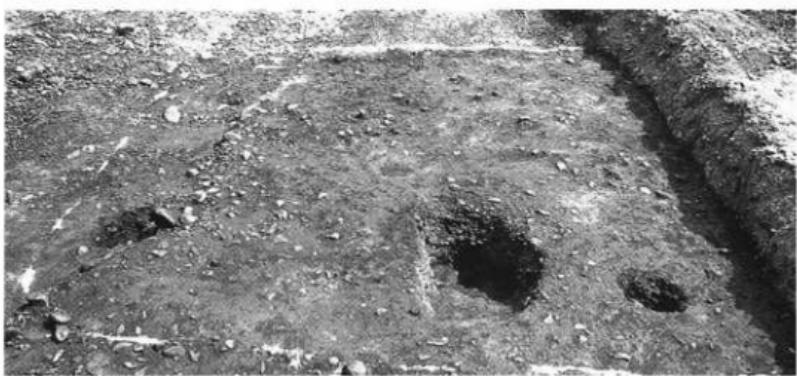
2 J 4号住居址



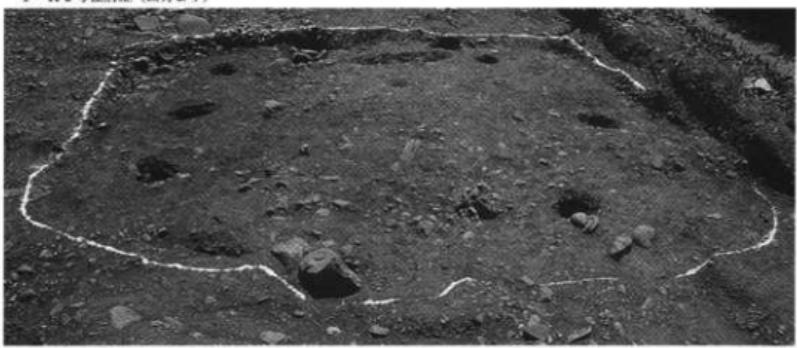
3 山法師B遺跡（第Ⅱ調査区）スナップ



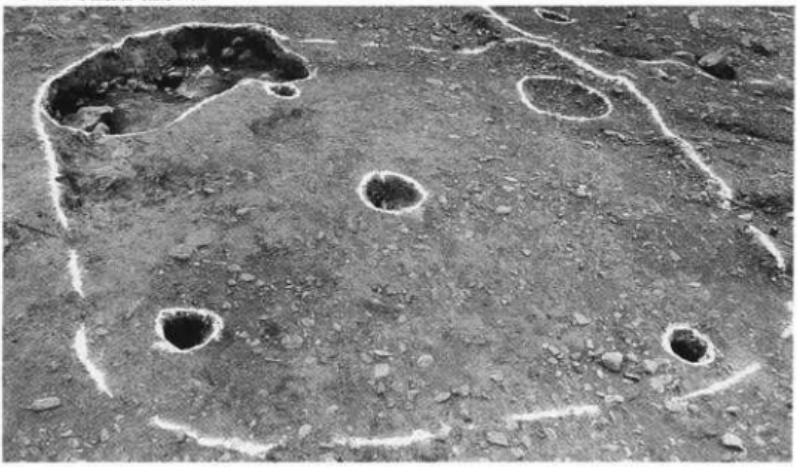
4 H 1号住居址（西方より）



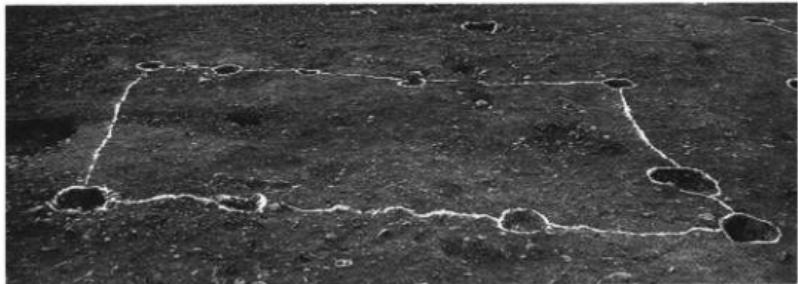
1 H 2号住居址（西方より）



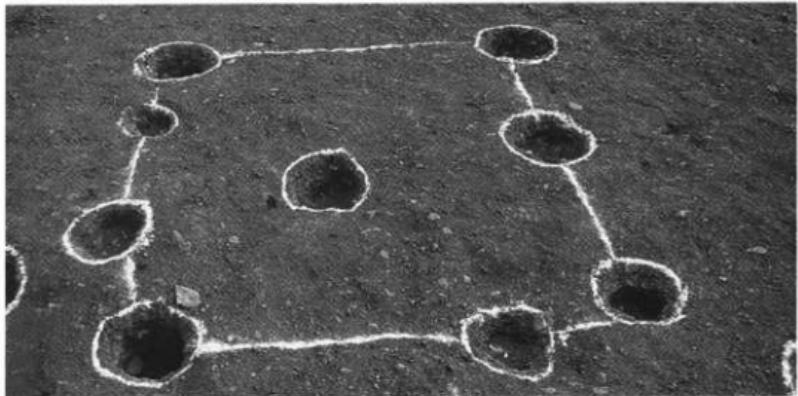
2 H 3号住居址（北方より）



3 H 4号住居址（北方より）



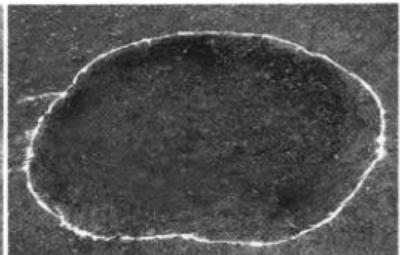
1 F 1号掘立柱建物址（東方より）



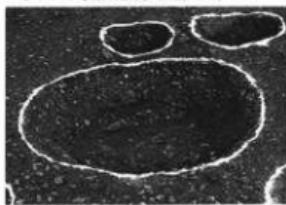
2 F 2号掘立柱建物址（北方より）



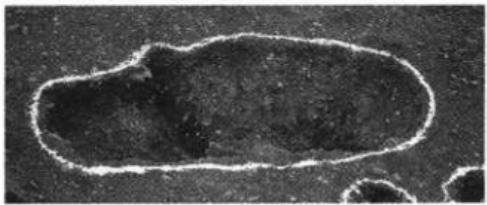
3 D 1号集石土坑（西方より）



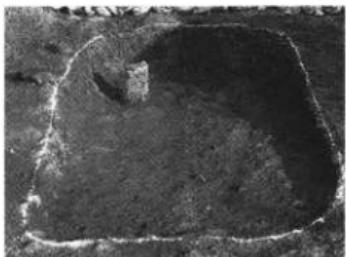
4 D 1号集石土坑、掘り方（四方より）



5 D 2号土坑（西方より）



6 D 3号土坑（北方より）



1 Ta 2号墳穴状遺構（西方より）



3 Ta 2号墳穴状遺構（西方より）



2 Ta 2号墳穴状遺構遺物出土状況



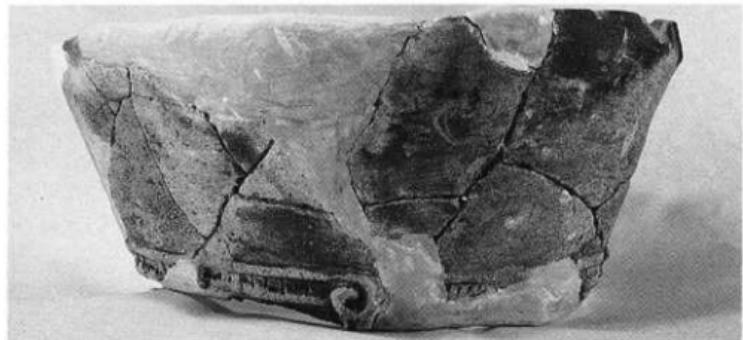
4 山法師遺跡B (第IV調査区) 近景



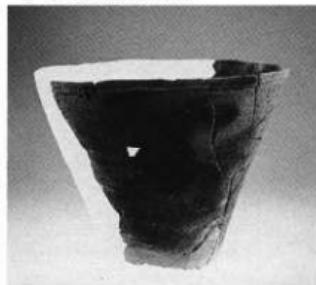
5 山法師遺跡B (第IV調査区) トレンチ



6 山法師遺跡B (第IV調査区) トレンチ



1 J 1号住居址出土土器



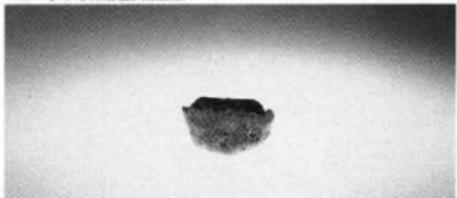
2 J 2号住居址出土土器



3 J 3号住居址出土土器



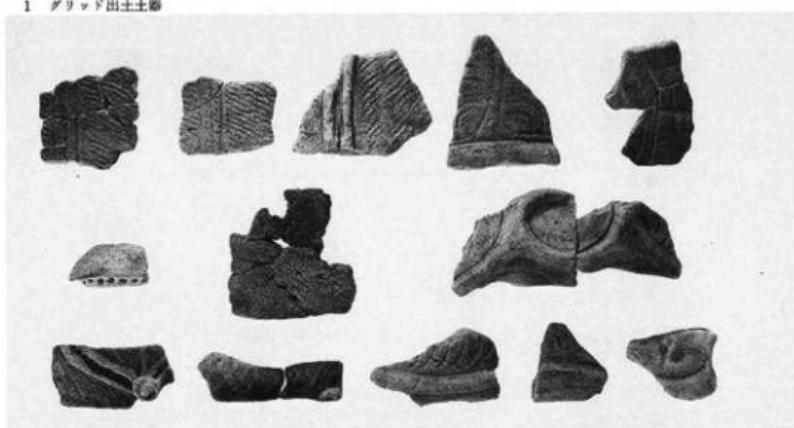
4 J 4号住居址出土土器



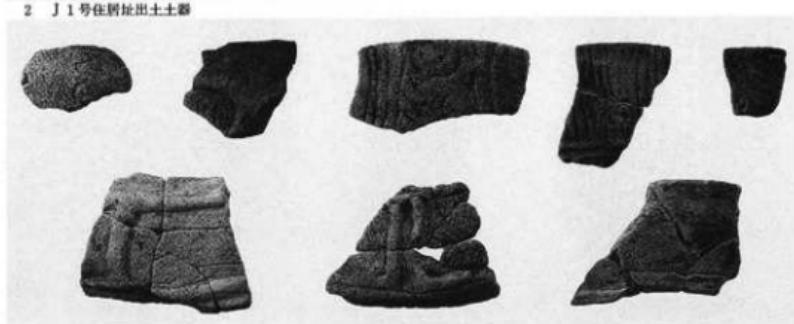
5 D 3号土坑出土土器



1 グリッド出土土器



2 J 1号住居址出土土器



3 J 3号住居址出土土器



1 J 4号住居址出土土器



2 D 1号土坑出土土器



3 D 1号土坑出土土器



4 D 2号土坑出土土器



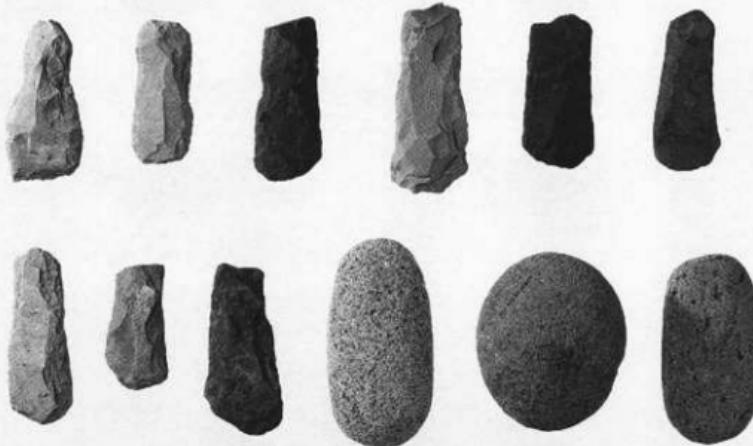
5 D 3号土坑出土土器



6 グリッド出土土器



1 山法師B遺跡出土石器



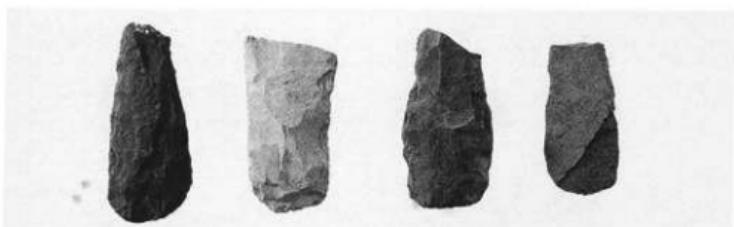
2 J 1號住居址出土石器



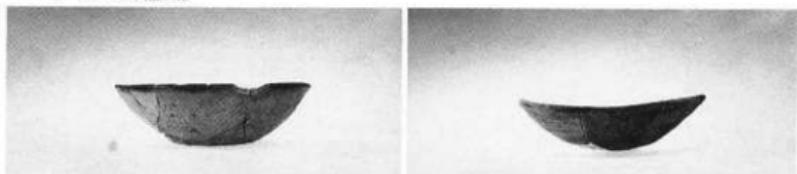
3 J 3號住居址出土石器



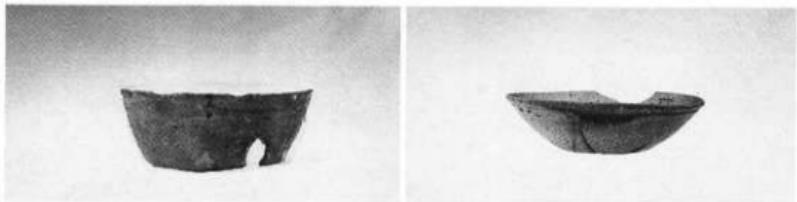
4 D 3號土坑出土石器



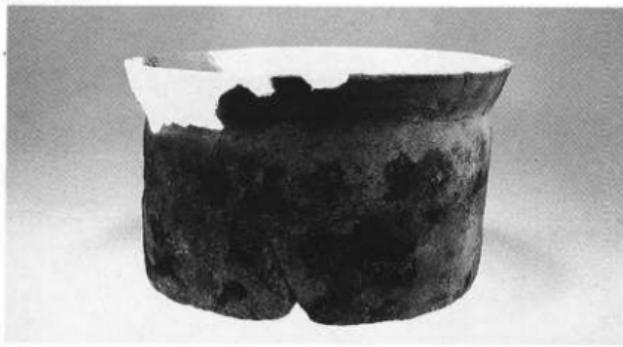
1 グリッフ出土石器



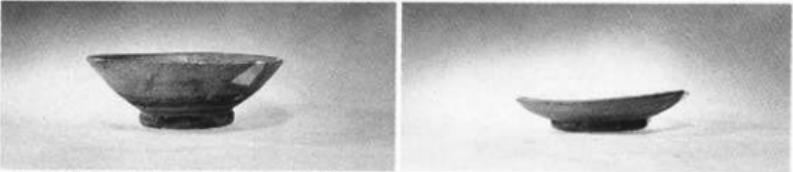
2 H 1号住居址出土土器



3 H 3号住居址出土土器



4 Ta 2号窓穴状遺構出土内耳土器



5 山法師遺跡（第IV調査区）トレンチ内出土土器

III 筒村遺跡B

筒村遺跡Bからは、平安時代の堅穴住居址1棟、掘立柱建物址2棟、土坑19基、縄文時代・平安時代・中世遺物集中出土地点5箇所が検出された。

調査区域の北西には、河川改良後の予定流路として調査された筒村遺跡Aがあり、中世の溝1条と縄文時代・弥生時代・平安時代・中世の遺物出土集中地点1箇所が検出されている。

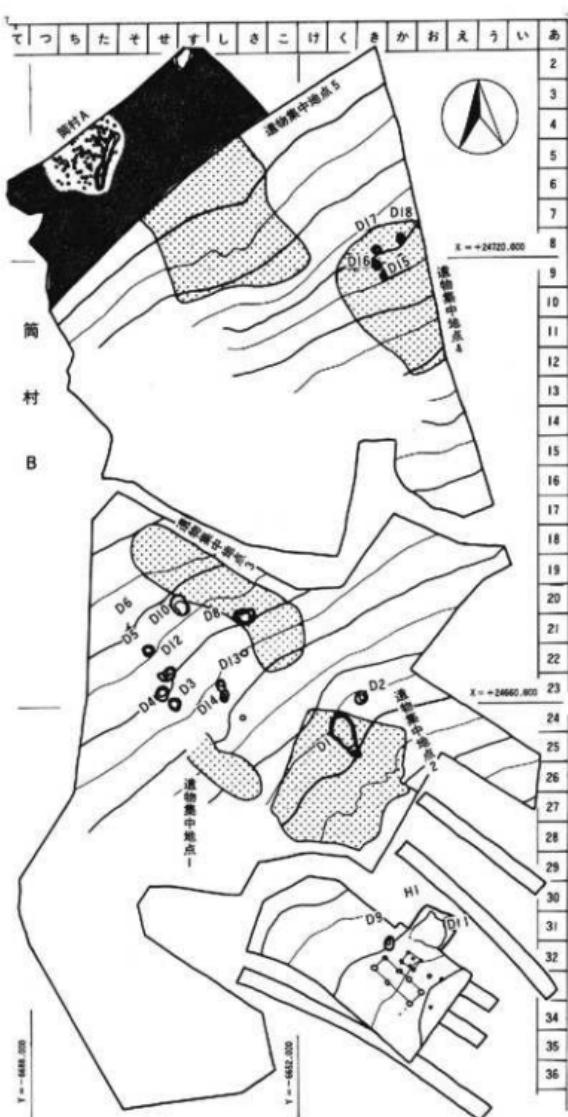
1 堅穴住居址

1) H1号住居址

本住居址は、お-31グリッドから検出された。

住居址の大半は、耕作により破壊されていた。南壁の残存長3.8mを測る。南東壁は隅丸を呈す。壁残存高16cm前後、主軸方向は、S-Wを測る。

ピットはカマドの前に1個検出され、東西32cm南北24cm深さ17cmである。



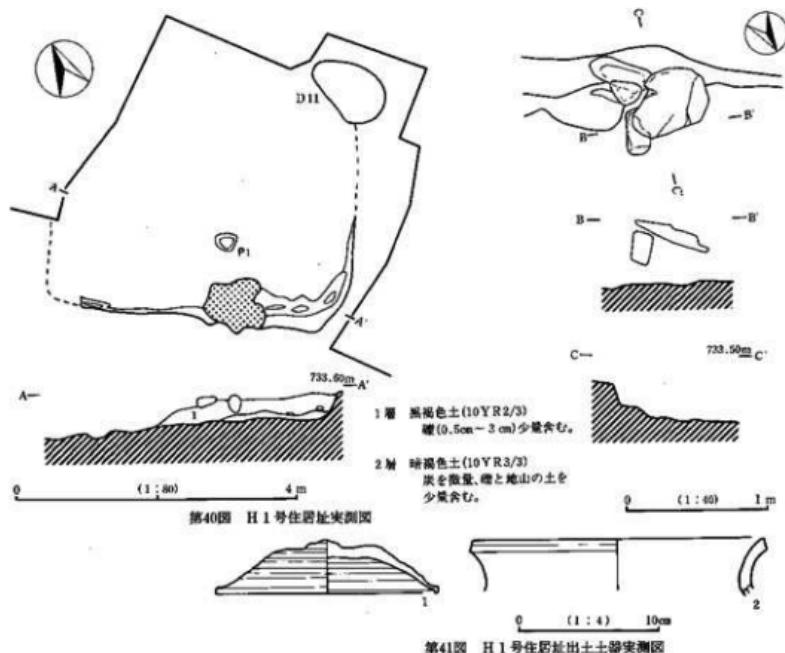
第39図 筒村遺跡B調査全体図 (1:750)

壁溝は、南壁カマドから東壁にかけて南壁西端に一部みられる。10~24cm深さ4~12cmを測る。覆土は2層に分層され、第2層には、炭がみられた。

南壁の東寄りに、カマドの構材とみられる礫が4個出土した。しかし、付近に焼土等はみられず僅かに炭が分布するのみで、カマドの位置を確定するものではない。

須恵器・土師器が出土遺物し、図示できたのは第41図の須恵器蓋・甕がある。

本住居址は、平安時代前半に位置づけられよう。



2 掘立柱建物址

1) F 1号掘立柱建物址

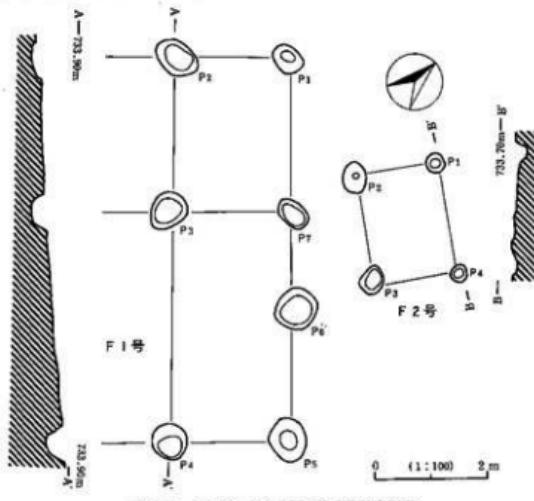
本址は、お~き-32・33グリッドから検出された。確認された平面形態は、桁行3間・梁間1間の細長い長方形であるが、南東側が低い地形のため柱穴が、すでに、失われていたことが考えられる。平面規模は、桁行6.7m・梁間2mを測り、長軸（桁行）の方位は、N-48°-Wを指す。柱間寸法は、桁行が2種あり、中央が狭く1.6mで両側が2.5m前後、梁間は2mである。

柱穴は円形を基調とする。その規模は、P 1(長径58*短径44*深さ34cm)、P 2(80*54*27cm)、P 3(72*60*28cm)、P 4(64*60*36cm)、P 5(80*66*30cm)、P 6(74*70*19cm)、P 7(62*40*13cm)をそれぞれ測る。P 3・P 7は底か仕切が考えられる。遺物は、縄文時代前期終末の土器小片が出土した。

2) F 2号掘立柱建物址

本址は、お・か-32グリッドから検出された。平面形態は、桁行1間・梁間1間のやや南北に細長い長方形である。平面規模は桁行2m・梁間1.5mを測り、長軸(桁行)の方位はN-55°-Wを指す。

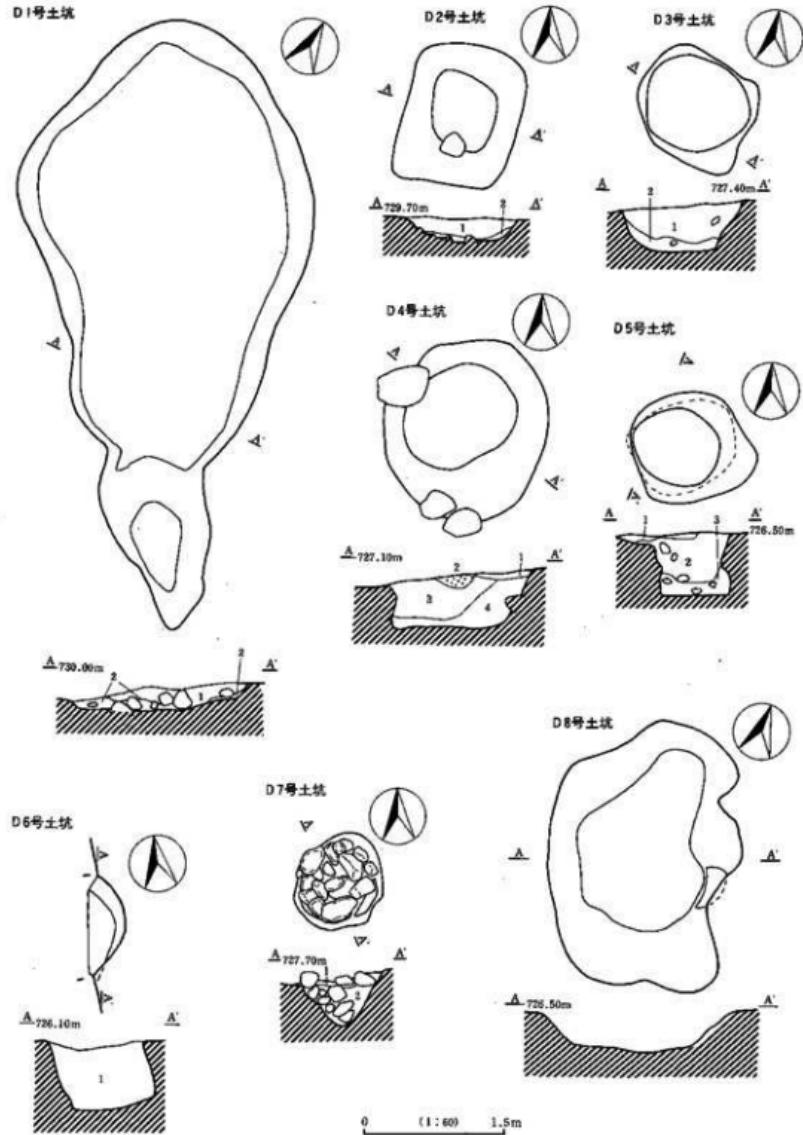
柱穴は円形を基調とする。その規模は、P 1(長径36*短径32*深さ14cm)、P 2(56*40*22cm)、P 3(52*40*12cm)、P 4(32*28*11cm)をそれぞれ測る。遺物は、平安時代須恵器片、縄文時代中期後半の土器小片が出土した。



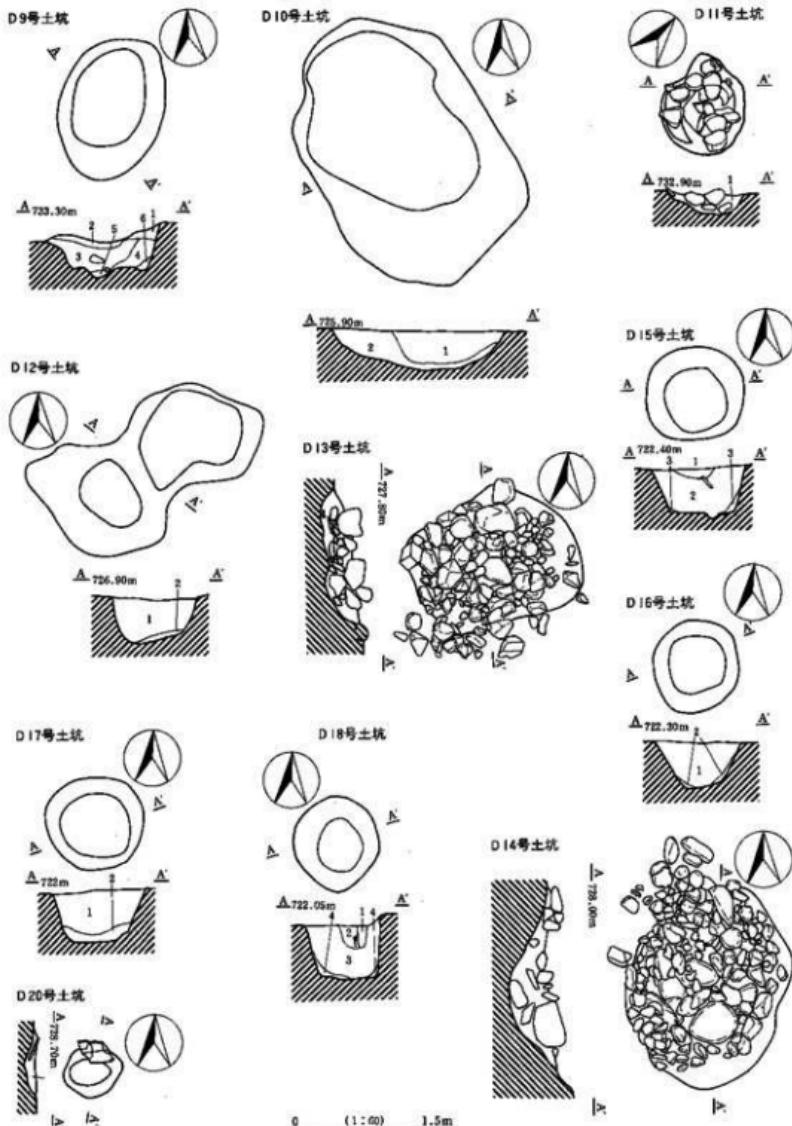
第42図 F 1号—F 2号掘立柱建物址実測図

3 土坑

土坑は19基が検出された。D11号・D13号・D14号土坑は、畑の耕作に関わるものと考えられる。D12号土坑、D15号土坑、D18号土坑からは、縄文時代中期末の土器片が出土した。また、D 1号土坑からは縄文時代前期終末・中期初頭が、D 9号土坑からは縄文時代前期終末の繊維土器が出土した。



第43図 D 1号～D 8号土坑実測図



第44圖 D 9号～D 18号・D 20号土坑実測図

土坑土層説明

D 1号土坑

- 1層 黒褐色土 (10Y R3/2) 5~10cmの礫多量に含む。
2層 暗褐色土 (10Y R3/4) 1cm大の小礫を多く含む。

D 2号土坑

- 1層 黒褐色土 (7.5Y R3/2) 5~10cmの礫多量に含む。
2層 暗褐色土 (7.5Y R3/4) 5cm大の礫多量に含む。

D 3号土坑

- 1層 黒褐色土 (10Y R2/3) 1cm大の礫多量、5cm大の礫少量含む。
2層 黑褐色土 (10Y R2/3) 1~2cm大の礫少量含む。

D 4号土坑

- 1層 黑褐色土 (10Y R3/2) 1~3cm大の礫少量含む。
2層 極暗褐色土 (7.5Y R2/3) 灰土。
3層 黑褐色土 (10Y R2/3) 0.5cm大の小礫多量に含む。
4層 黑褐色土 (10Y R2/2) 5~10cmの礫多量に含む。

D 5号土坑

- 1層 純作土
2層 黑褐色土 (10Y R2/3) 1~3cmの礫多量に含む。
3層 黑褐色土 (10Y R2/3) 3~6cmの礫多量に含む。

D 7号土坑

- 1層 黑褐色土 (10Y R2/3) 0.3~0.5cmの礫多量に含む。
2層 黑褐色土 (10Y R2/3) 灰土を多量に含む。

D 9号土坑

- 1層 黑褐色土 (10Y R2/3) 0.5~3cmの礫多量に含む。
2層 暗褐色土 (10Y R3/3) 0.5~3cmの礫多量に含む。
3層 黑色土 (10Y R2/1) 2cm大の礫多量に含む。
4層 暗褐色土 (10Y R3/3) 0.5~3cmの礫多量に含む。
5層 暗褐色土 (10Y R3/3) 2~4cmの礫多量に含む。
6層 暗褐色土 (10Y R3/4) 2cm大の礫少量含む。

D 10号土坑

- 1層 黑褐色土 (7.5Y R3/2) 5cm大の礫多量に含む。
2層 暗褐色土 (10Y R3/4) 10cm大の礫多量に含む。

D 11号土坑

- 1層 黑褐色土 (10Y R2/3) 0.5~2cm大の礫少量含む。

D 12号土坑

- 1層 黑褐色土 (7.5Y R3/2) 5~10cmの礫多量に含む。
2層 暗褐色土 (7.5Y R3/4) 5cm大の礫多量に含む。

D 13号土坑

- 1層 黑褐色土 (7.5Y R2/2) 0.5~3cm大の小礫多量に、5~20cmの礫も多量に含む。灰を少量。空洞の箇所がみられた。

D 14号土坑

- 1層 黑褐色土 (10Y R3/2) 0.5~2cm大の礫多量に含む。

D 15号土坑

- 1層 黑褐色土 (7.5Y R2/2) 5~10cm大の礫を含む。
2層 黑褐色土 (7.5Y R3/2) 5~15cm大の礫、0.5~1cmの礫少量含む。
3層 暗褐色土 (7.5Y R3/4)

D 16号土坑

- 1層 黑褐色土 (7.5Y R3/2) 5~10cm大の礫、0.5~1cmの礫少量含む。
2層 暗褐色土 (7.5Y R3/4) 2~5cm大の礫を少量含む。

D 17号土坑

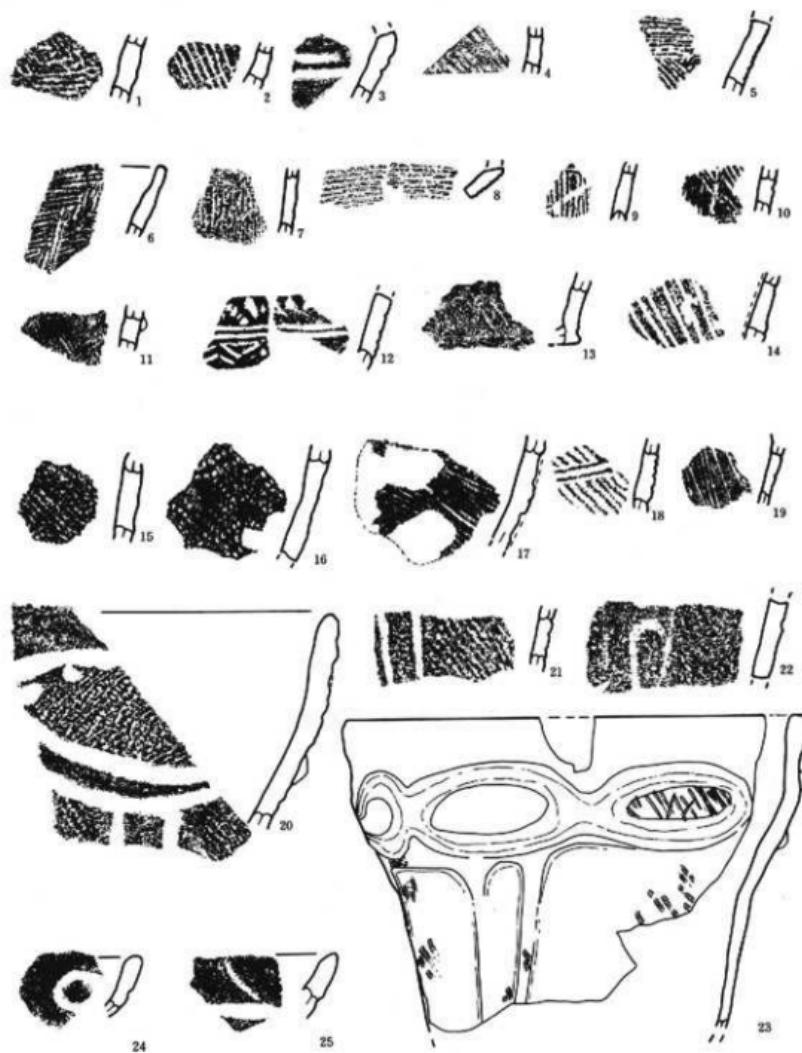
- 1層 板状褐色土 (7.5Y R2/3) 5~10cm大の礫を少量含む。
2層 黑褐色土 (7.5Y R2/2) 1~2cm大の礫を少量含む。

D 18号土坑

- 1層 黑色土 (7.5Y R2/1) 灰を多量に含む。
2層 黑褐色土 (7.5Y R2/2) 灰を少量含む。
3層 極暗褐色土 (7.5Y R2/3)
4層 暗褐色土 (7.5Y R3/4)

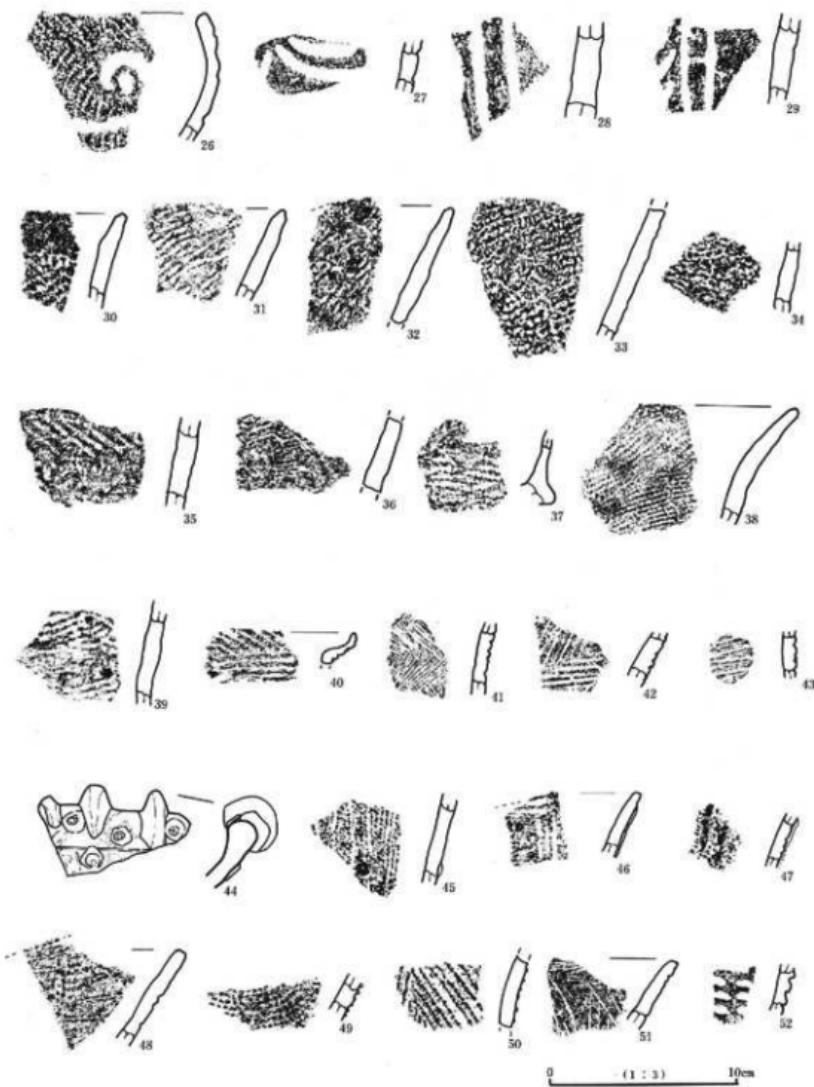
D 20号土坑

- 1層 黑褐色土 (10Y R2/3) 0.5~2cm大の礫を少量含む。



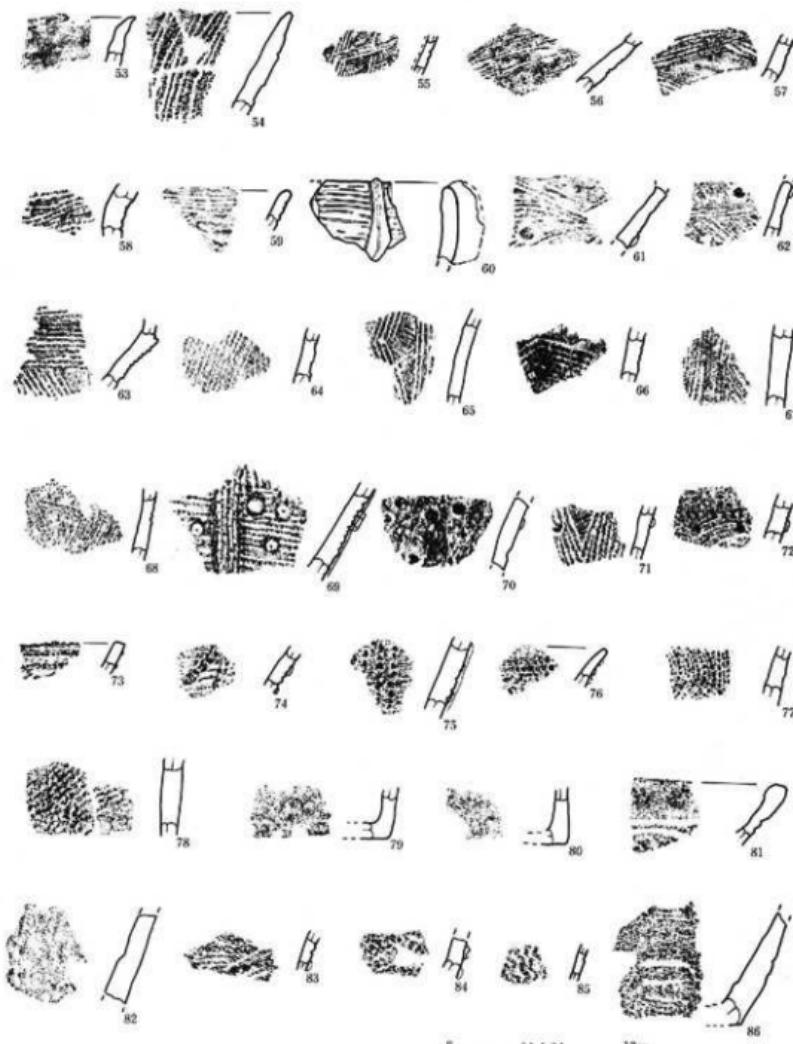
1~13(D 1号出土)、14(D 3号出土)、15(D 7号出土)、16~19 (D 9号出土)
20(D 12号出土)、21~23(D 15号出土)、24, 25(D 18号出土)

第45图 挖立柱遗址·土坑出土遗物实测图



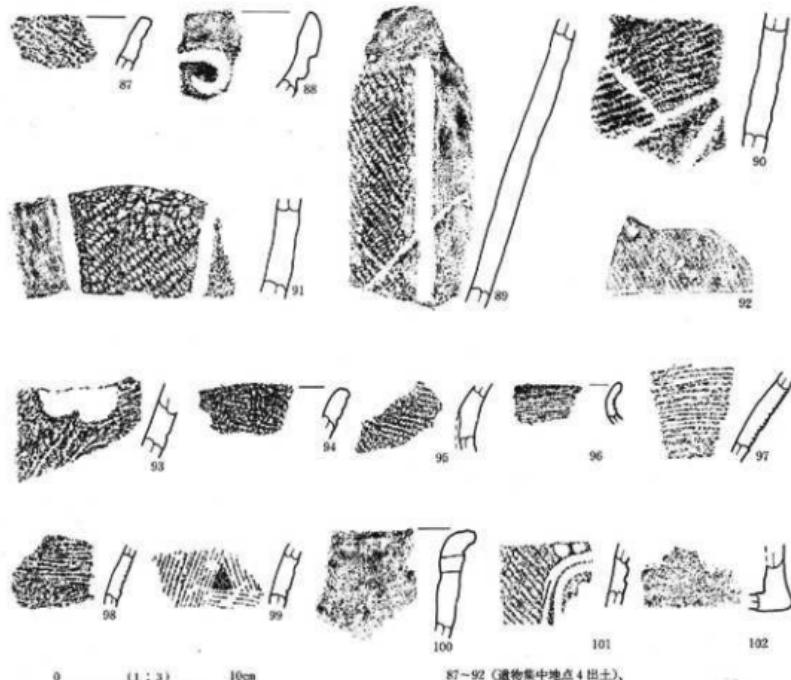
26~29(D18号出土)、30~52(遺物集中地点1出土)

第46図 土坑・遺物集中地点1出土土器実測図



53~81(遗物集中地点2出土), 82~84(遗物集中地点3出土),
85~86G(遗物集中地点4出土)

第47图 遗物集中地点2·3·4出土土器实测图



第46図 遺物集中地点4・5出土土器実測図

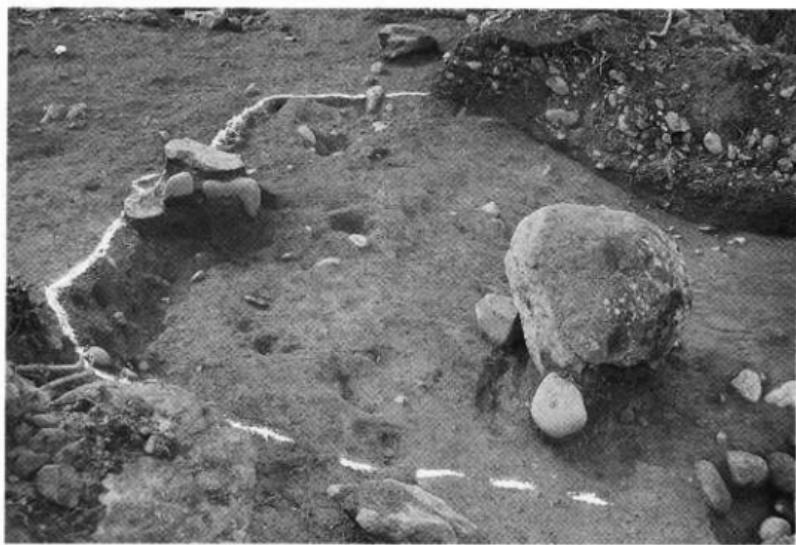
4 遺物集中地点出土土器

筒村遺跡Bでは住居址・土坑などの遺構の他に、窪地に堆積した黒色土中に多くの土器が含まれる遺物集中地点が5ヶ所確認された。

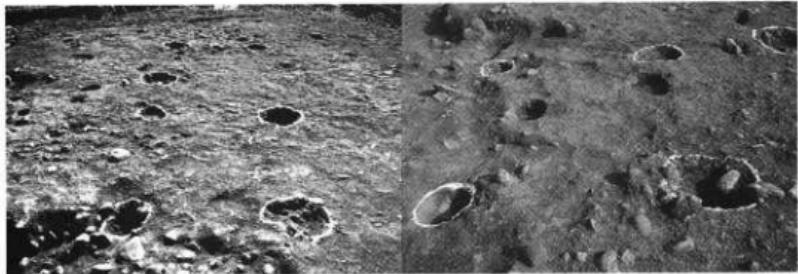
遺物集中地点1および2からは、縄文時代前期終末の斜状縄文が施文される繊維土器、竹管文や浮線文の施された土器が出土した。遺物集中地点3からは縄文時代前期終末の土器が、遺物集中地点4からは縄文時代早期の押型文や中期末、さらに、上層から平安時代の須恵器も出土している。遺物集中地点5からは、縄文時代前期終末の斜状縄文が施文される繊維土器、竹管文が施文された土器、中期前半の土器も検出された。



1 造物集中出土地点2・3近景（南方より）

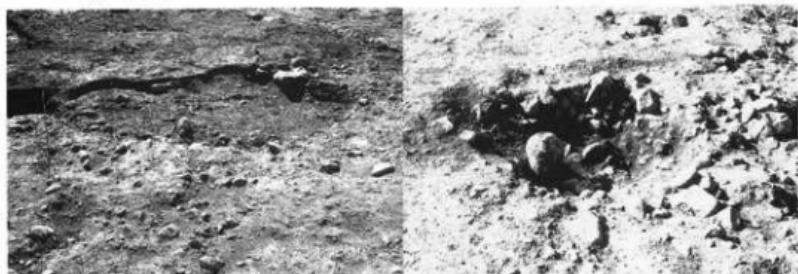


2 H 1号住居址（東方より）



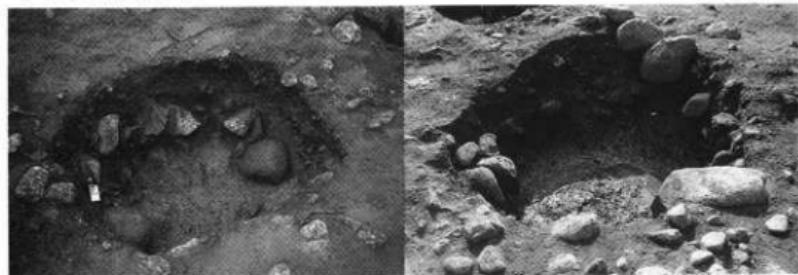
1 F 1号掘立柱建物址（北西方より）

2 F 2号掘立柱建物址（北西方より）



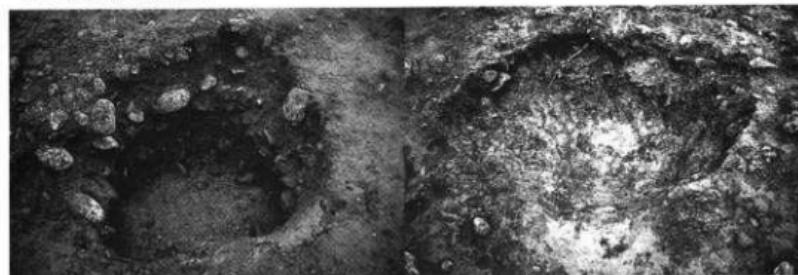
3 D 1号土坑（東方から）

4 D 2号土坑（西方より）



5 D 3号土坑（北東方より）

6 D 4号土坑（北西方より）



7 D 5号土坑（西方より）

8 D 10号土坑（北西方より）



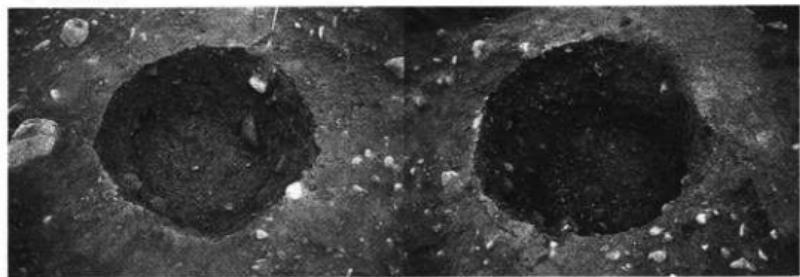
1 D11号土坑（西方から）

2 D12号土坑（南西方より）



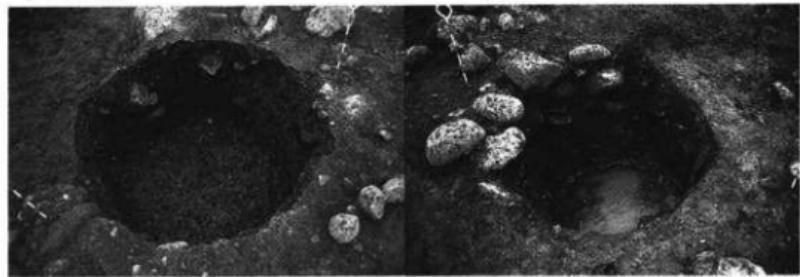
3 D14号土坑

4 D15号土坑



5 D15号土坑

6 D16号土坑

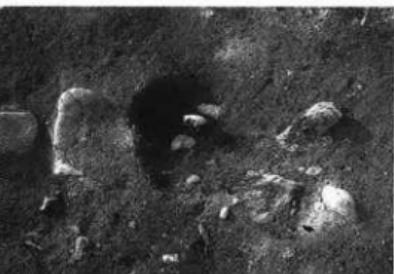


7 D17号土坑

8 D18号土坑



1 D20号土坑



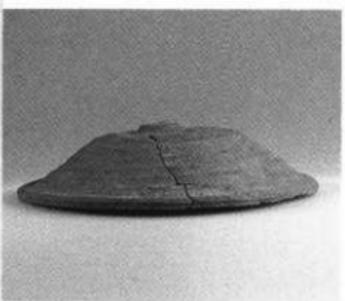
2 D20号土坑



3 H1号住居址・F1号・F2号・D9号近景（西方より）



4 D15号土坑出土土器



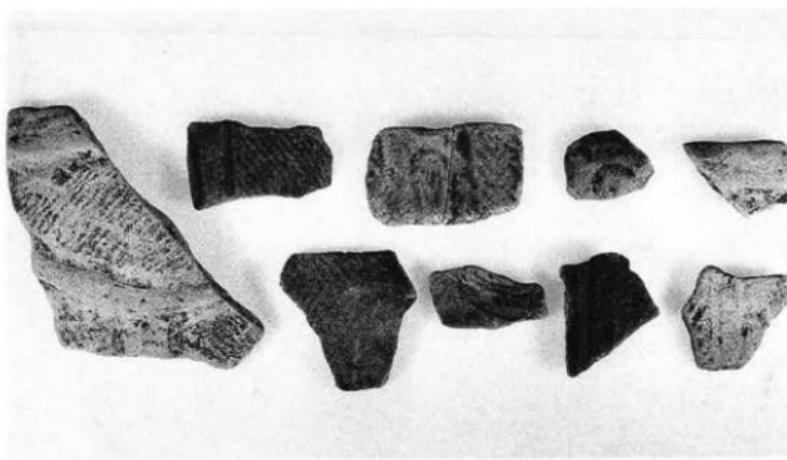
5 H1号住居址出土土器



1 筒村遺跡日調査スナップ



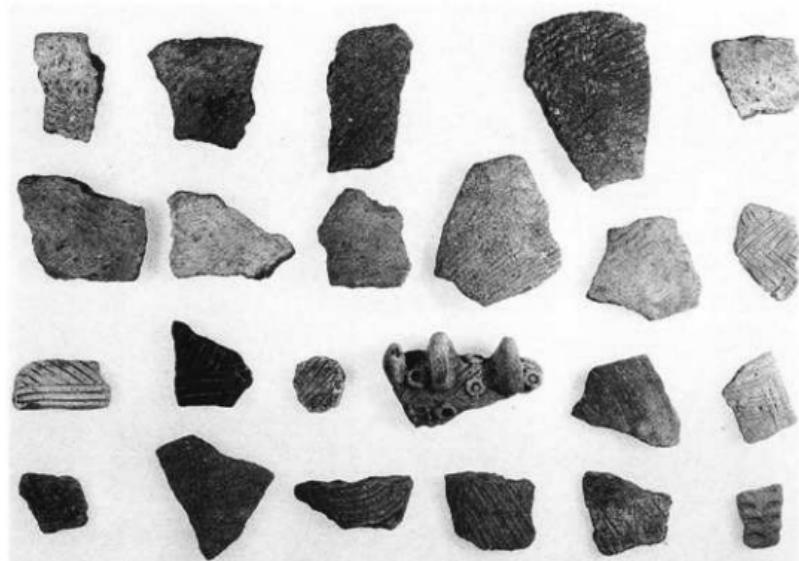
2 D15号土坑出土土器



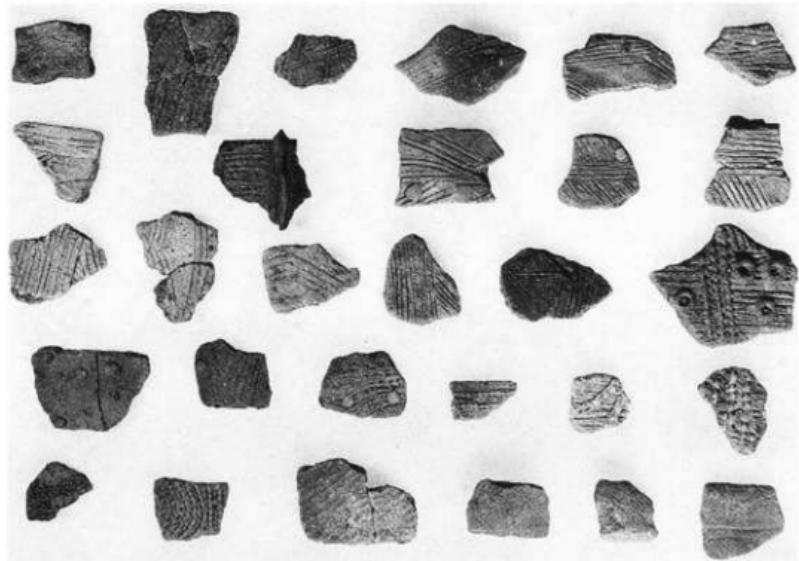
3 F1号、F2号、D1号、D3号、D7号、D9号出土土器



4 D12号、D15号、D18号出土土器



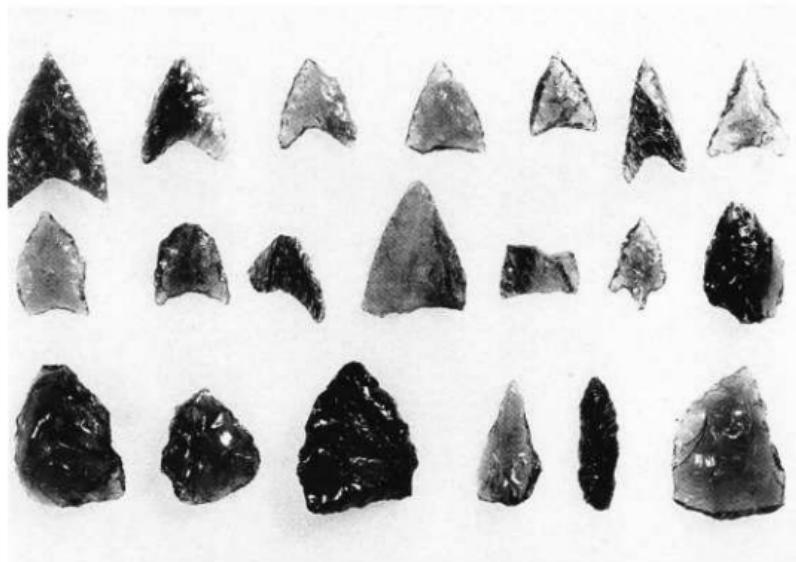
1 遺物集中地点1出土土器



2 遺物集中地点2・3出土土器



1 遗物集中地点 4·5 出土遗物



2 荷村遗址 B 出土石器

佐久市埋蔵文化財調査報告書	第1集	「金井城跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第2集	「市内遺跡発掘調査報告書1990」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第3集	「石附塚群III」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第4集	「大ふけ遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第5集	「立科F遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第6集	「上曾根遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第7集	「三貫堀遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第8集	「櫛の下遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第9集	「国道141号線関係遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第10集	「御原遺跡II」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第11集	「赤庭塚外遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第12集	「若宮遺跡II」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第13集	「上高山遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第14集	「栗木坂遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第15集	「野馬久保遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第16集	「石並城跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第17集	「市内遺跡発掘調査報告書1991」(1月～3月)
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第18集	「西曾根遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第19集	「上芝宮遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第20集	「下聖塙遺跡III」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第21集	「金井城跡III」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第22集	「市内遺跡発掘調査報告書1991」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第23集	「南上中原・南下中原遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第24集	「上聖塙遺跡」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第25集	「上久保田向IV」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第26集	「藤原占浜群・藤塚II」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第27集	「上久保田向III」
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第28集	「曾根新城V」

佐久市埋蔵文化財調査報告書第29集

筒村遺跡B・山法師遺跡B発掘調査報告書

1994年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒384-01 長野県佐久市大字中込3056

埋蔵文化財課

〒385 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印 刷 所 轉 佐 久 印 刷 所
